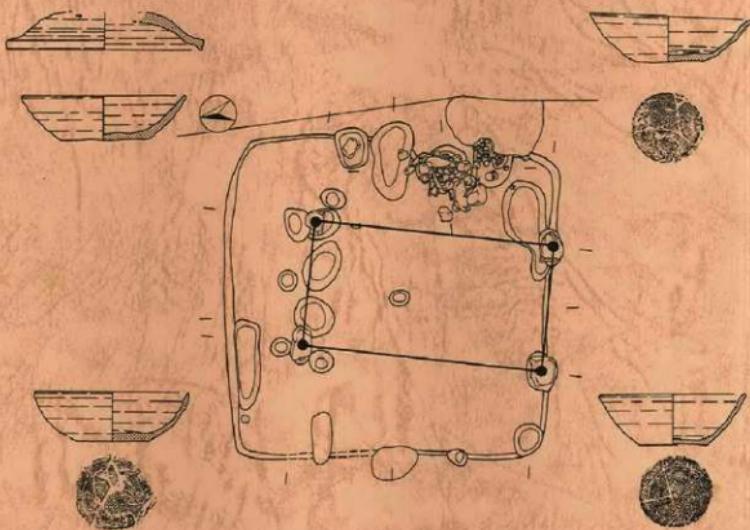


## 開畝遺跡IV

—長野県埴科郡坂城町営住宅建設に係る緊急発掘調査報告書—



2008.3

坂 城 町  
坂城町教育委員会

## 開畠遺跡IV

2008.3

坂 城 町  
坂城町教育委員会

## 序

坂城町教育委員会教育長 長谷川 臣

今回発掘調査を実施した開故遺跡IVは、坂城町大字中之条を西に流下する御堂川によって形成された扇状地のほぼ中央に立地しています。御堂川をはさんで南側には豊饒堂遺跡があり、過去の調査で平安時代の製鉄造構が発見されています。また、今回の調査地点の東約300mには中世における製鉄遺跡「開故製鉄遺跡」が所在しており、その発掘調査には人間国宝であった故宮入行平刀匠もスコップを手に参加されていたことが昨日のように思い返されます。

今回の発掘調査では、奈良～平安時代の住居址が発見されました。この中には、柱を土中に埋めて立てるものではなく、基礎石を設置してこの上に柱を立てる様式の住居址が発見されました。近隣の市町村には僅かながら発見例はありますが、坂城町内からの発見はこれが初めてとなります。住居様式が平安時代から鎌倉時代にかけて、竪穴式住居から平地式住居へ変化する変遷過程を考える上で非常に注目される発見でした。また、縄文時代の石器を作成していたと思われる痕跡が多數発見されたことから、坂城町が縄文時代から中世を経て現代に至るまでのづくりの町であることを雄弁に語れるようになりました。

開故遺跡IVの発掘調査は、土中に眠る文化遺産の重要性を理解していただいた関係者の皆様方のご支援とご協力によって行うことができました。厚く御礼申し上げます。また、現地において作業にあたられた皆様には、夏の暑い時期と冬の寒い時期の悪条件の中、献身的な努力と、古代文化解明へのゆるぎない情熱によって、調査を無事終了させていただいたことを感謝いたします。さらに、関係機関、関係各位には、文化財保護行政の本旨をご理解くださいり、ご協力いただきましたことに心から御礼を申し上げ、序文とさせていただきます。

## 例　　言

- 1 本書は、長野県埴科郡坂城町開歎遺跡IVの発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、坂城町より委託を受け、坂城町教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査所在地及び面積  
　　開歎遺跡IV　長野県埴科郡坂城町大字中之条字開歎2164ほか　1,500m<sup>2</sup>
- 4 調査期間　試掘調査　平成14年11月18日～11月22日  
　　現地調査　平成18年6月5日～平成19年3月29日  
　　整理調査　平成19年4月9日～平成20年3月19日
- 5 本書の主な執筆・編集は、助川・田中・時信が行った。
- 6 本書掲載の土器及び石器観察表は田中が作成した。
- 7 本書の作成にあたり、助川・田中・時信のほか、朝倉、天田、坂巻、萩野が主な作業を行った。
- 8 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。
- 9 本調査及び本書作成にあたって、下記の方々や機関から御配慮を得た。記して感謝の意を表したい。  
(敬称略、50音順)  
市川桂子、尾見智志、佐更埴地域シルバー人材センター、鈴木徳雄、大工原豊、谷藤保彦、山口逸弘、山崎まゆみ

## 凡　　例

- 1 遺構の略号は、下記のとおりである。  
H→竪穴住居址　F→振立柱建物址　R→製鉄関連遺構　D→土坑址  
Q→特殊遺構　P→ピット　M→溝状遺構
- 2 遺構名は、時代別ではなく発掘調査時においての命名順である。
- 3 本書に掲載した実測図の縮尺は該当箇所のスケールの上に記した。
- 4 掘図中におけるスクリーントーンは、下記を示す。  
遺構　■→構築土　■→焼土　■→カマド  
遺物　■→須恵器断面・土師器黒色処理　■→赤色塗彩範囲　■→石器磨滅範囲
- 5 遺物の掘図中での表記は、第1図1は、簡易的に1-1と表記した。
- 6 土層の色調は『新版 標準土色帖』の記載に基づいている。
- 7 出土遺物の観察表の法量は、口径・底径・器高の順に記載し、-は不明、( )が残存値、< >が推定値、( )・< >がない場合は完存値を示し、単位はcmである。

## 目 次

序

例 言

凡 例

第Ⅰ章 発掘調査の経緯 .....	1
第1節 発掘調査に至る動機と経緯.....	1
第2節 調査の構成.....	2
第3節 調査日誌.....	2
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境 .....	3
第1節 地理的環境.....	3
第2節 歴史的環境.....	3
第Ⅲ章 調査の概要.....	7
第1節 調査の方法.....	7
第2節 基本層序.....	8
第3節 検出された遺構・遺物.....	8
第Ⅳ章 調査の結果.....	10
第1節 穫穴住居址.....	10
第2節 土坑址.....	15
第3節 その他の遺構.....	34
第4節 遺構外出土の遺物.....	37
掲載土器観察表.....	39
掲載石器観察表.....	42
第Ⅴ章 総 括 .....	44
写真図版.....	46
報告書抄録.....	49

# 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

## 第1節 発掘調査に至る動機と経緯

開戦遺跡は、坂城町大字中之条に所在し、標高420～460m前後を測る、御堂川によって形成された扇状地の扇尖部に立地している。平成元年度に作成された『坂城町遺跡分布図』によると、弥生～平安時代の集落址とされている。平成5年度に実施された都市計画街路事業に伴う開戦遺跡Ⅱの発掘調査及び、平成11年度に店舗新築に伴う発掘調査によって、古代に位置づけられる集落址が判明している。

今回、この地に町営住宅の建設事業が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じた。そのため、原因者である坂城町建設課と遺跡の保護措置について協議を行ったところ、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとなり、平成14年11月18日から試掘調査を実施した。開発対象地に5本のトレンチを設定して遺構・遺物の確認を行った結果、4本のトレンチで遺構・遺物が検出された。遺構は開発対象地の北側及び西側に集中する傾向が見えたが、これは開発対象地東側においては大規模な削平が行われていたからである。この結果を基に再度協議した結果、住宅建築部分に関しては発掘調査を実施し、駐車場部分は盛土によって遺跡を保護することとなった。



第1図 開戦遺跡IV位置図 (1:25,000)

## 第2節 調査の構成

### 発掘調査体制

- 調査指導者 塩入秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）  
調査担当者 助川朋広（坂城町教育委員会学芸員）、時信武史（坂城町教育委員会学芸員）  
調査補助員 朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、荻野れい子（以上、町臨時職員）  
調査協力員 井澤靖、太田武夫、大塚勝司、春日勝、佐藤司、塩野入希幸、千野正彦、塙田義勝、  
三橋良助、宮澤龍一、柳原喜伸、米田博光、（以上、御更埴地域シルバー人材センター）

### 整理調査体制

- 調査担当者 助川朋広（前出）、時信武史（前出）  
調査補助員 朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、田中浩江、荻野れい子（以上、町臨時職員）  
調査協力員 荒川園子、三井重子、滝沢かつ子、塙田智子（以上、御更埴地域シルバー人材センター）

### （事務局）

- 教育長 柳澤哲（～平成19年5月31）  
教育長 長谷川臣（平成19年6月1日～）  
生涯学習課長 塙田好一（～平成19年3月31）  
教育文化課長 西沢悦子（平成19年4月1日～）  
文化財係長 助川朋広  
文化財係 時信武史  
朝倉妙子、天田澄子、坂巻ケン子、田中浩江、千野美樹、中沢あつみ、荻野れい子（以上、町臨時職員）

## 第3節 調査日誌

### 試掘調査・発掘調査

- 平成14年11月18日 試掘調査開始。  
11月22日 試掘調査終了。  
平成18年6月5日 発掘調査開始。D区、重機による表土剥ぎ開始。  
平成18年6月6日 D区表土剥ぎ終了。遺構検出、掘り下げ開始。  
平成18年6月7日 D区調査終了。B区表土剥ぎ。A区表土剥ぎ開始  
平成18年6月9日 A区表土剥ぎ終了。遺構検出、掘り下げ開始。  
平成18年8月7日 A区調査終了。航空撮影。  
平成19年2月6日 C・D区表土剥ぎ開始。  
平成19年2月23日 C・D区表土剥ぎ終了。遺構検出、掘り下げ開始。  
平成19年2月26日 C・D区調査終了。

平成19年度中整理作業及び報告書作成。

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接触点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空藏山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

### 第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は5、6ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前後の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土している。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学術的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼の遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、

全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡（1-8）が注目される。奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開歓遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力をを持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区的銀音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区的開歓製鉄遺跡（53）がある。銀音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林1999）。開歓製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置づけられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

#### 参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開歓製鉄遺跡第一回調査報告』 1979『開歓製鉄遺跡第二回調査報告』 1993『宮上遺跡Ⅱ』 1995『東蔵遺跡』 1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・守義遺跡・東町遺跡』 1996『守義遺跡Ⅱ』 2000『開歓遺跡Ⅲ』 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 2002『保地遺跡Ⅱ』  
岡 孝一 1996『長野県坂城郡保地遺跡発掘調査報告』『考古学雑誌』第51巻第3号  
森鷗 稲ほか 1981『坂城町史』中巻 歴史編（-）  
柳沢 亮 1998『第5席 開歓遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』（財）長野県埋蔵文化財センター  
若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』「第11章 銀音平経塚」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2』（財）長野県埋蔵文化財センター



### 坂城町遺跡分布図

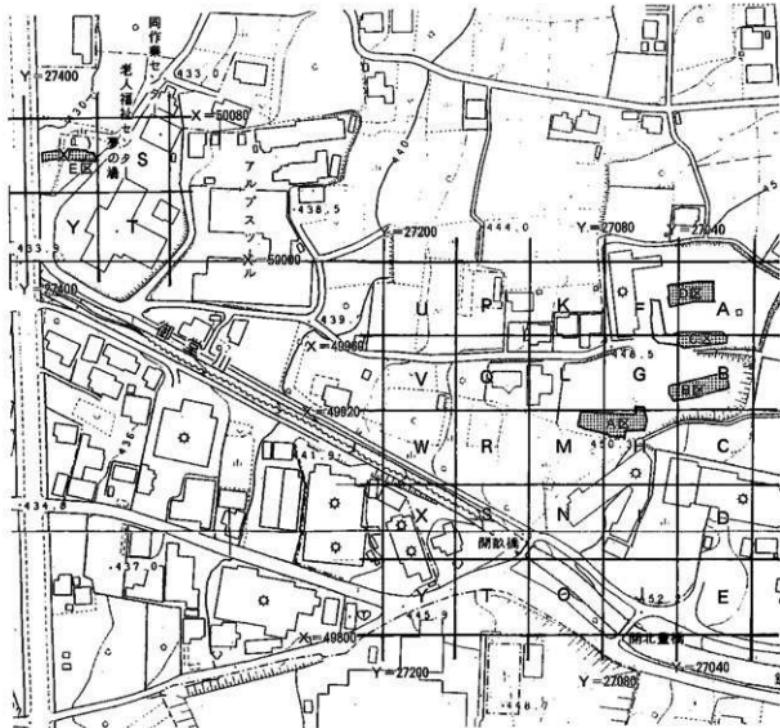
国語番号	通　　譯　　名	種　　別	特　　代
35	猪の山	古語	字代
36	平川町	新語	
37	松平村野村	集落名	絆文+平安
-1	松平村野村　和平八道路	道路名	絆文+平安
-2	松平村野村　和平9道路	道路名	物生
-3	松平村野村　和平C道路	道路名	宇摩
37	今比奈山道	古　語	古語(後編)
38	今比奈山	古　語	
39	弓の馬鹿野	新語	既成
40	北日吉村野村	古　語	字代
41	北日吉村古道原	古　語	古語(後編)
-1	北日吉村弓1号線	古　語	古語(後編)
-2	北日吉村弓2号線	古　語	古語(後編)
42	梅ノ木酒造	新語	西文
43	梅ノ木酒	新語	既成
44	丘見野村	古　語	
45	出山古道	古　語	古語(後編)
-1	出山古道古原　出山支村1号線	古　語	古語(後編)
-2	出山古道古原　出山支村2号線	古　語	企画(後編)
-3	出山古道古原　出山支村3号線	古　語	古語(後編)
-4	出山古道古原　出山支村4号線	古　語	古語(後編)
-5	出山古道古原　出山支村5号線	古　語	古語(後編)
-6	出山古道古原　出山支村6号線	古　語	古語(後編)
-7	出山古道古原　島田2号線	古　語	古語(後編)
46	只道跡	集落名	絆文+平安
47	絆文弓野村	古　語	古語(後編)
-1	絆文弓野村　小野支村1号線(御所社古道)	古　語	古語(後編)
-2	絆文弓野村　小野支村2号線	古　語	古語(後編)
-3	絆文弓野村　小野支村3号線	古　語	古語(後編)
-4	絆文弓野村　小野支村4号線	古　語	古語(後編)
48	小野支村	集落名	絆文+平安
49	桜井古道沿	古　語	古語(後編)
50	桜井古道沿	古　語	古語(後編)
51	佐須野跡	城跡	中世
52	三水跡跡	城跡	中世
53	佐野跡	城跡	中世
54	山田寺跡	城跡	中世
55	佐野古道	古　語	字代
56	鹿子の御原	古　語	字代
57	鹿子の御原	集落名	絆文+平安
58	南日吉村	集落名	物生+平安
59	葛花村古道原	城跡	近世
60	城跡	城跡	中世
61	城跡	城跡	近世
62	城跡	城跡	近世
63	御所支村跡原	集落名	中世
64	御所支村	集落名	字代
65	中之郷石切堀跡	城跡	近世
66	活用跡	古　語	古語(後編)
67	中之郷代官跡	城跡	近世
68	中之郷代官跡	城跡	近世
69	中之郷代官跡	城跡	近世
70	南郷川古道(吉良寺跡)	敷地古跡	絆文+中世
71	口留支村跡	集落名	近世
72	松原跡	城跡	中世
73	高ノツチ原	城跡	中世
74	虎空山古道	城跡	中世
75	虎空山古道原	城跡	近世
76	虎空山古道	城跡	中世
77	出山古道	城跡	中世
78	上五郎里坐堂本址	水跡	平安+近世
79	出山涌跡	水跡	絆文+平安
80	村上古道跡	城跡	中世
81	猪ノ尾川跡原	城跡	中世
82	小野支村	古　語	古語(後編)
83	猪ノ尾川古道	古　語	古語(後編)
-1	猪ノ尾川古道　猪ノ尾支村1号線	古　語	古語(後編)
-2	猪ノ尾川古道　猪ノ尾支村2号線	古　語	古語(後編)
-3	猪ノ尾川古道　猪ノ尾支村3号線	古　語	古語(後編)
84	荒原跡原	集落名	絆文+平安
85	御所古道跡	集落名	絆文+平安
86	御所古道	古　語	字代
87	鳥シガケ古道原	城跡	近世
88	上芋古道跡原	城跡	近世
89	猪ノ尾古道跡	城跡	近世

## 第Ⅲ章 調査の概要

### 第1節 調査の方法

本遺跡の調査では、調査区の遺構・遺物の正確な位置を記録でき、なお、将来的に周辺で実施される遺跡の発掘調査での遺構・遺物の調査にも整合できるように、平成14年4月施行の世界測地系2000の座標軸を基にグリッドを組んだ。

グリッドについては、200m×200mの大グリッドを設け区画を行い、その中を40m×40mに25等分した中グリッドを設定（第3図）し、北東端より「A・B・C…Y」区とアルファベットの大文字で命名した。本調査ではA・B・F・G・H・M・X区が発掘調査の対象グリッドである。また、その中グリッドを4m×4mの小グリッドで100区画に分割し、南北列を北から算用数字で「1・2・3…10」、東西列を東から五十音順で「あ・い・う…こ」と呼称することとした。例えば、その中の北東交点を「Oグリッド」というように命名し、調査に係るグリッドの呼称は例えば「Oあ1グリッド」とし、遺物の取り上げや遺構図の作成の基準とした。また、発掘調査における遺構の実測は、基本的に1/20を基準として簡易遺り方実測にて行った。



第3図 開敷遺跡IV発掘調査区設定図 (1:2500)

第2節 基本層序

本調査区の基本層序は右図に柱状図を示したとおりである。I層は表土層である。II層は造成土で、かつてこの地に建てられていた工場の造成に伴うものである。III層は黒褐色を呈する粘質土層で、遺物を包含する層である。IV層は黒褐色を呈する粘質土層で、遺物を包含する旧表土層である。V層はにぶい黄褐色を呈する砂礫土層で、地山層である。縄文時代に属する土坑などはこの層の堆積と相前後する時期に営まれていたものである。各調査地点において、近代以降の土地利用の形態によって若干の差異はあるものの、概ね上記のような基本層序が確認できた。

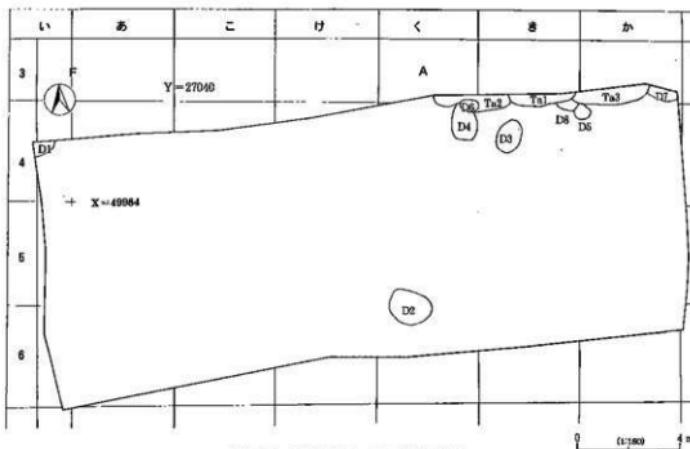


第4图 基本顺序模式图

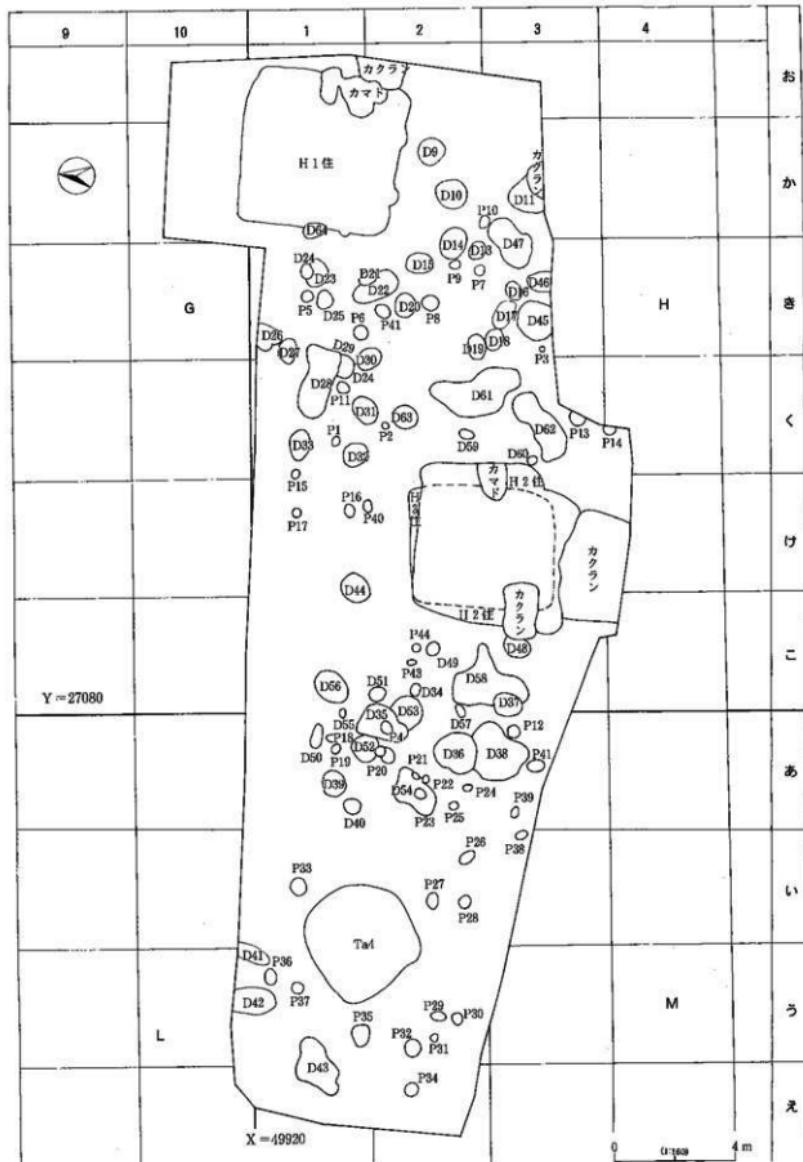
### 第3節 検出された遺構・遺物

本調査によって検出された遺構・遺物は以下のとおりである。

遺構)		遺物)		
縄文時代	土坑址	33基	縄文時代	土器・石器
弥生時代	竪穴住居址	1棟	弥生時代	土器
奈良・平安時代	竪穴住居址	2棟	奈良・平安時代	土師器・須恵器
	土坑址	4基		
時期不明	竪穴状遺構	4基		
時期不明	土坑址	27基		



第5圖 開放道路IV 口区構成配置図



第6図 開発遺跡IV A区遺構配置図

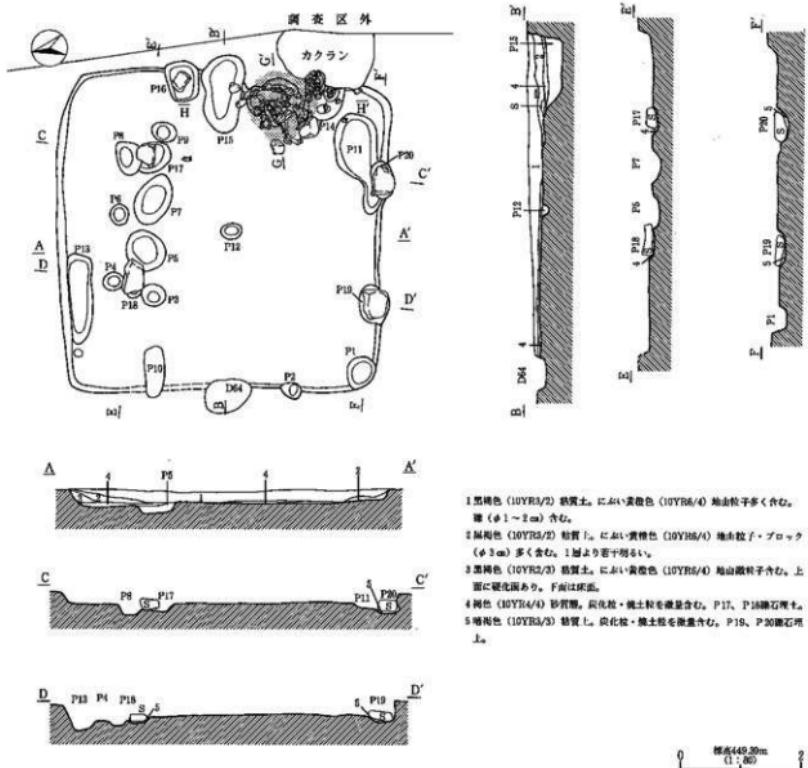
## 第IV章 調査の結果

### 第1節 堅穴住居址

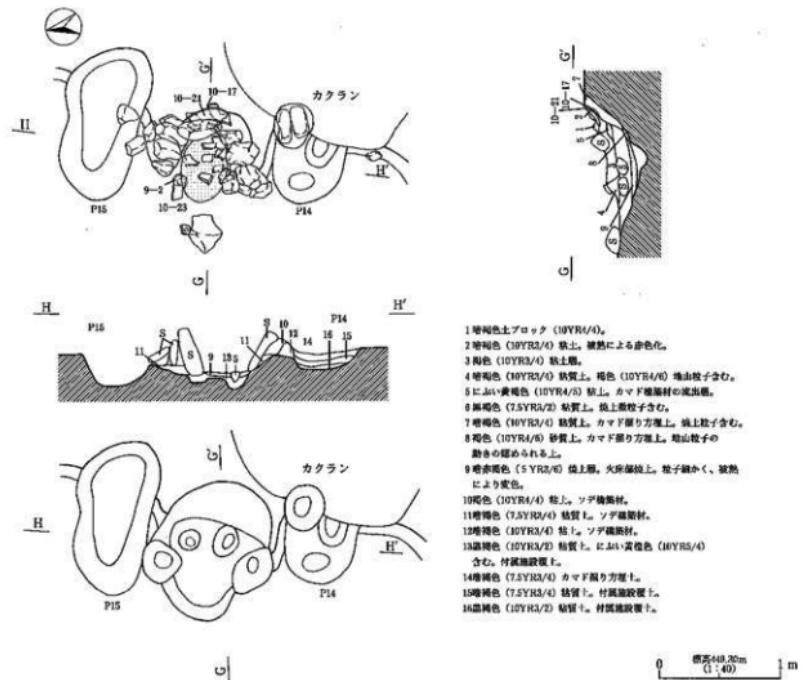
#### (1) H1号住居址

##### 遺構(第7・8図)

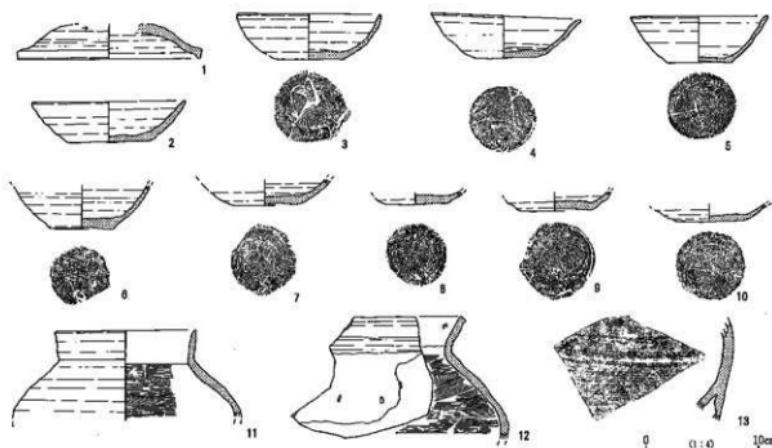
検出位置: Gお10、Gか10、Hお1、Hお2、Hか1、Hか2グリッド。重複関係:D64を切り、搅乱に切られている。平面形態: 約5.3m×5.3mの隅丸方形を呈している。主軸方位はE-3°-Sを指す。覆土: 暗褐色・黒褐色を基調とする土層が、緩やかなレンズ状堆積を呈していた。床上数cmのところから、屋根の上に置かれていたものと思われる人頭程度の角礫が多く出土した。カマド: 東壁において検出された。遺存度は良好で、板状の石材を壁体内面に並べた状況や、須恵器甕の破片をカマド内面に貼り付けている状況が確認できた。また、明確な火床面・灰層が確認できた。床面の状況: 概ね平坦であった。硬化した場所は確



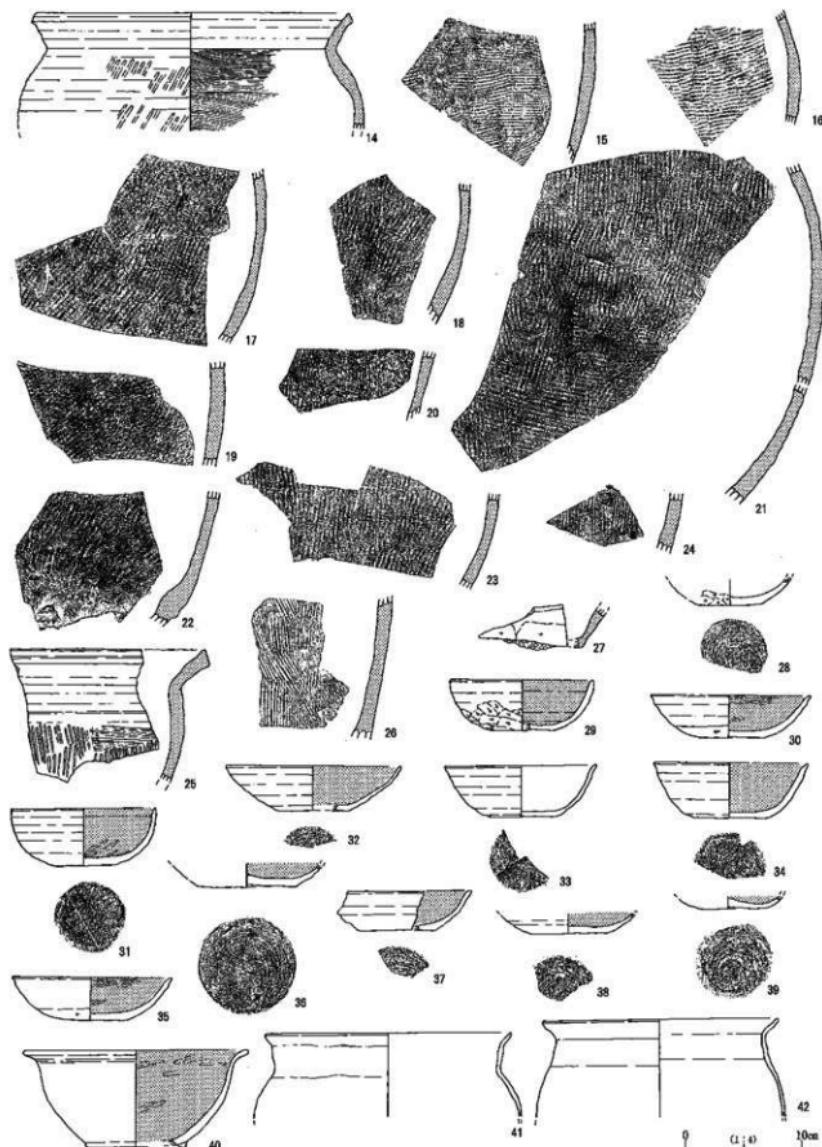
第7図 H1号住居址実測図



第8図 H1号住居址カマド実測図



第9図 H1号住居址出土土器実測図(1)



第10圖 H1號住居址出土土器實測圖(2)



第11図 H 1号住居址出土土器実測図(3)

認できなかった。ピット：床面において、複数のピットが確認された。カマドの脇に掘り込まれたピット以外は浅いもので、用途などは判然としない。焼土や炭化物を少量内包したピットも複数見られた。遺物出土状況：住居址の覆土全体からも少量は出土したが、カマド脇のピットからは破片であったがまとまった量の土器片が出土した。住居廃絶時に一括廃棄したものであろうか。礎石：本住居址では柱穴は確認できなかつたが、礎石が4個検出された。床面を掘り込んで設置されていたが、上面は4個とも概ね同レベルであった。配置が南に偏ってはいるが、柱を設置するための礎石として使用されたものと思われる。

#### 遺物（第9・10・11図、第1・2表）

9-1は須恵器壺蓋である。9-2～10は須恵器壺である。9-11～10-26は須恵器甕である。10-39は土師器壺である。10-40は土師器鉢である。10-41～11-45は土師器甕である。時期：出土遺物や住居址の形態から平安時代前半頃の所産と思われる。

#### (2) H 2号住居址

##### 遺構（第12図）

検出位置：Hく2、Hく3、Hけ2、Hけ3、Hく2、Hく3グリッド。重複関係：H 3号住居址を切り、南壁一部を搅乱に切られる。平面形態：東西辺の残存状況が不良で推定になるが、長軸約5.5m、短軸約5.3mの隅丸方形を呈している。東辺のカマド周辺は部分的に拡張が行われている。カマドの改修などに伴って行われたのであろうか。主軸方位はE-4°-Sを指す。覆土：暗褐色・黒褐色を基調とする土層が、緩やかなレンズ状堆積を呈していた。床上數cmのところから角礫や炭化材が多く出土した。住居の上屋構造と関係するものであろうか。カマド：東壁において検出された。遺存度は良好で、拳大の角礫を練りこんだ壁体と明確な火床面・灰層が確認できた。床面の状況：概ね平坦であった。出入り口と思しき西側の一部分が硬化していたほかは、全体的に緩い印象であった。ピット：床面において、柱穴をはじめ複数のピットが確認された。柱穴は浅いもので約35cm、深いもので約60cmであった。柱穴以外のピットはどれも浅いもので用途などは判然としなかつたが、焼土や炭化物を多く内包したピットも複数見られた。遺物出土状況：覆土全体から土器片などの出土が見られたが、床上數cmのところからの出土量が最も多かった。本住居址は遺物や炭化材の出土状況から、廃絶後に什器や主要建築材を持ち出した後に火を受け、その後埋没していったものと思われる。

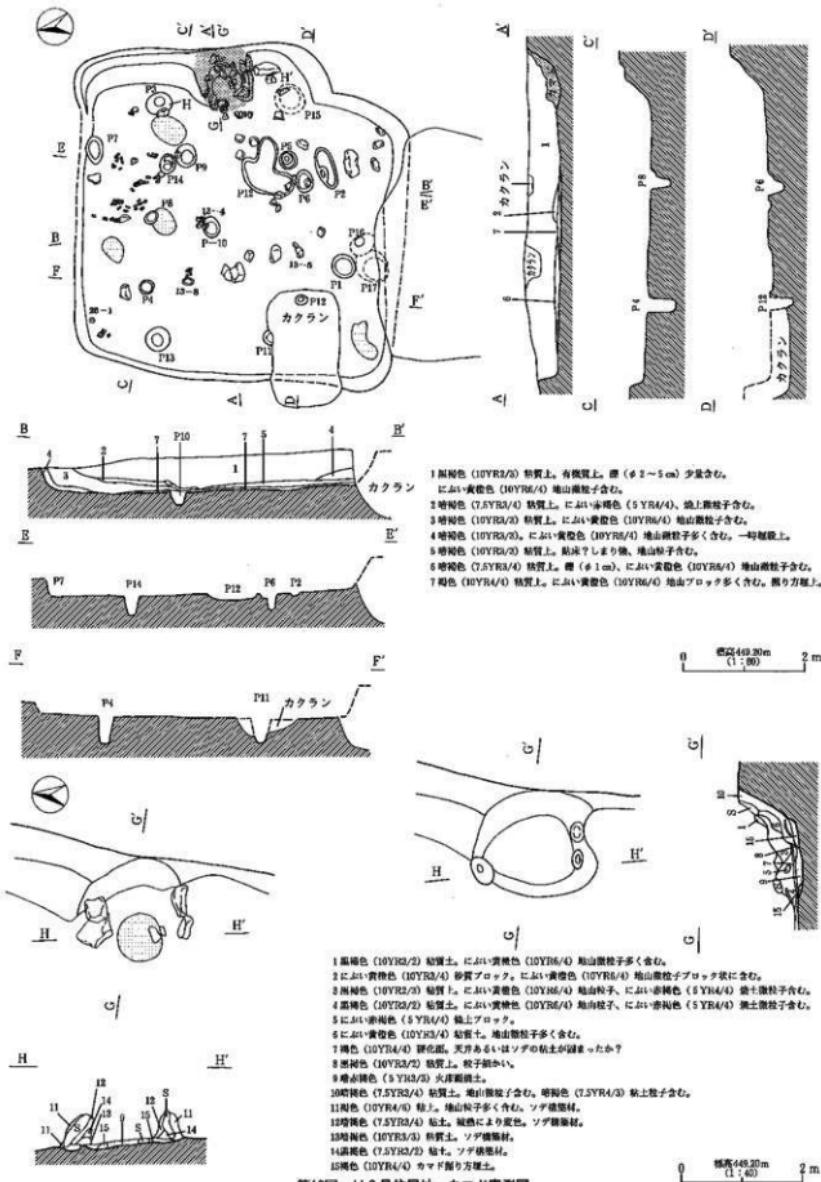
##### 遺物（第13図、第2表）

1～5は須恵器壺である。6・7は土師器壺である。8～11は土師器甕である。時期：出土遺物や住居址の形態から平安時代前半頃の所産と思われる。

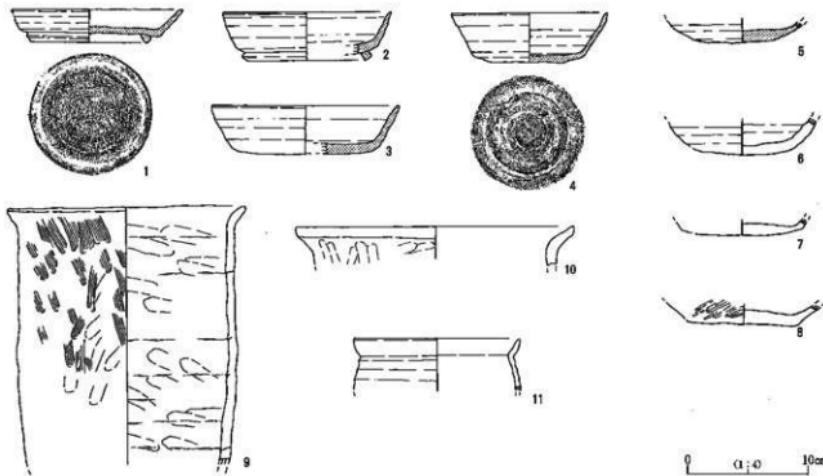
#### (3) H 3号住居址

##### 遺構（第14図）

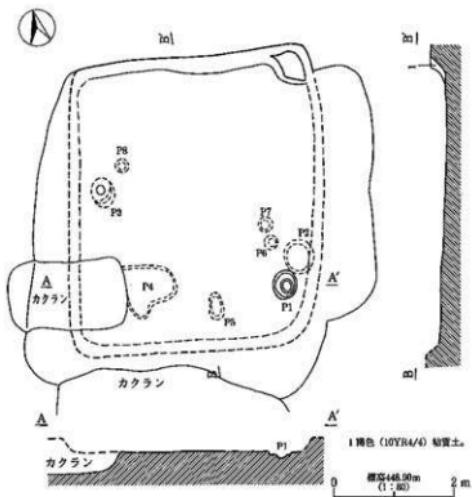
検出位置：Hけ2、Hけ3、Hこ2、Hこ3グリッド。重複関係：H 2号住居址に切られる。平面形態：北辺以外はH 2号住居址に切られて不明。主軸方位はN-7°-Eを指す。覆土：暗褐色を基調とする土層が



第12図 H 2号住居址 カマド要測図



第13図 H2号住居址出土土器実測図



第14図 H3号住居址実測図

堆積していた。炉址：検出されなかった。床面の状況：僅かな範囲でしか検出できなかつたため詳細は不明である。ピット：本住居址に伴うと思われるピットは1箇所検出された。壁溝：検出されなかった。遺物出土状況：覆土から弥生土器片が數十点出土した。

#### 遺物（第15図、第2・3表）

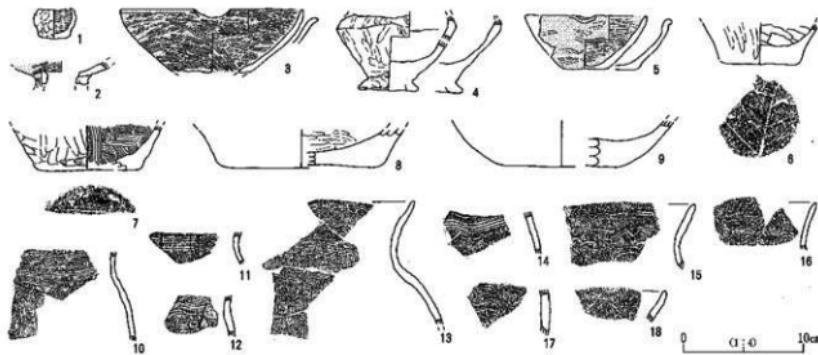
1は手捏土器である。2は高環である。3～5は鉢で注口を有する。3は丁寧なミガキの後に赤彩されている。6・8は壺である。7・9～18は甕である。時期：出土遺物から弥生時代後期の所産と考えられる。

## 第2節 土坑址

### (1) D1号土坑

#### 遺構（第16図）

検出位置：Fない4グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：緩やかな逆台形を呈し、掘り込み面からの深さは約1.1mである。覆土：下層付近は黄褐色砂礫土と暗褐色粘質土を用いて互層に突き固め、中層以上は黒褐色の砂礫土で埋め戻している。柱の痕跡は残存していないかったが、柱抜き取り痕と思しき土層の乱れが確認できた。遺物出土状況：覆土上層から須恵器・



第15図 H3号住居出土土器片実測図

土師器が数点、下層から縄文土器片が1点出土した。

#### 遺物（第20図、第3表）

1は須恵器壺の底部である。時期：出土した遺物から古代の所産と考えられる。

#### (2) D2号土坑

##### 遺構（第16図）

検出位置：Aく5、Aく6グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.7m、短軸約1.3mの楕円形を呈し、主軸方位はN-69°—Wを指す。断面形態：わずかに逆台形を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/4）の砂礫層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：遺物は全く出土しなかったが、覆土の色調などから、弥生期以降の所産と考えられる。

#### (3) D3号土坑

##### 遺構（第16図）

検出位置：Aき4グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.3m、短軸約1.0mの楕円形を呈し、主軸方位はN-23°—Eを指す。断面形態：わずかに逆台形を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/3）の砂礫層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

#### (4) D4号土坑

##### 遺構（第16図）

検出位置：Aく3、Aく4グリッド。重複関係：T a 2・D 6に切られる。平面形態：長軸約1.5m、短軸約1.1mの隅丸長方形を呈し、主軸方位はN-10°—Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/4）の砂礫層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の状況から、縄文期以降の所産と考えられる。

### (5) D 5号土坑

遺構(第16図)

検出位置: Aか3、Aか4、Aき3、Aき4グリッド。重複関係: T a 3・D 8に切られる。平面形態: 調査区外未検出のため不明。断面形態: 逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土: 暗褐色(10YR3/4)の、やや粘性のある砂疊層の単層であった。遺物出土状況: 遺物は出土しなかった。時期: 帰属時期は不明である。

### (6) D 6号土坑

遺構(第16図)

検出位置: Aく3、Aく4グリッド。重複関係: D 4を切っている。T a 2との切りあい関係は確認できなかった。平面形態: 長軸約0.7m、短軸約0.5mの梢円形を呈し、主軸方位はN-0°-Wを指す。断面形態: 逆台形を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土: 暗褐色(10YR3/4)の、やや粘性のある砂疊層の単層であった。遺物出土状況: 遺物は出土しなかった。時期: 帰属時期は不明である。

### (7) D 7号土坑

遺構(第16図)

検出位置: Aか3グリッド。重複関係: T a 3に切られる。平面形態: 調査区外未検出のため不明。断面形態: 逆台形を呈し、掘り込み面からの深さは約50cmを測る。覆土: 暗褐色(10YR3/3)の、粘性のある砂疊層の単層であった。遺物出土状況: 遺物は出土しなかった。時期: 帰属時期は不明である。

### (8) D 8号土坑

遺構(第16図)

検出位置: Aき3、Aき4グリッド。重複関係: T a 1に切られ、T a 3を切っている。平面形態: 長軸約0.75m、短軸約0.5mの梢円形を呈し、主軸方位はN-78°-Wを指す。断面形態: すり鉢状を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土: 暗褐色(10YR3/3)の、砂疊層の単層であった。遺物出土状況: 遺物は出土しなかった。時期: 帰属時期は不明である。

### (9) D 9号土坑

遺構(第16図)

検出位置: Hお2グリッド。重複関係: なし。平面形態: 長軸約0.9m、短軸約0.8mの梢円形を呈し、主軸方位はN-31°-Wを指す。断面形態: 概ね箱形を呈するが底部付近で一部オーバーハングしている。検出面からの深さは約60cmを測る。覆土: にぶい黄褐色を基調とする砂質土層に被覆され、最下層には暗褐色の粘質土が薄く堆積していた。遺物出土状況: 覆土中から13片の縄文土器が出土した。

遺物(第20図、第3表)

2は深鉢である。半裁竹管による沈線や円形刺突紋が施されている。時期: 出土した土器片や覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる

#### (10) D10号土坑

遺構（第16図）

検出位置：Hお2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.1m、短軸約0.9mの楕円形を呈し、主軸方位はN-2°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約5cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/3）の、砂礫を含む粘質土層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から弥生時代以降の所産と考えられる。

#### (11) D11号土坑

遺構（第16図）

検出位置：Hか3グリッド。重複関係：搅乱によって切られる。調査区外未検出のため不明。平面形態：搅乱および調査区外未検出のため不明。断面形態：緩やかな逆台形を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。覆土：褐色（10YR3/4）の、粘質土層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (13) D13号土坑

遺構（第16図）

検出位置：Hき2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.6m、短軸約0.5mの楕円形を呈し、主軸方位はN-63°-Wを指す。断面形態：概ね箱形を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：暗褐色を基調とする土層に被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より3片の縄文土器が出土した。時期：出土遺物や覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (14) D14号土坑

遺構（第16図）

検出位置：Hか2、Hき2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.1m、短軸約0.9mの楕円形を呈し、主軸方位はN-63°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：暗褐色を基調とする土層に被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より4片の縄文土器が出土した。

遺物（第26図、第5表）

7は黒曜石製の石鎌である。時期：出土遺物や覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

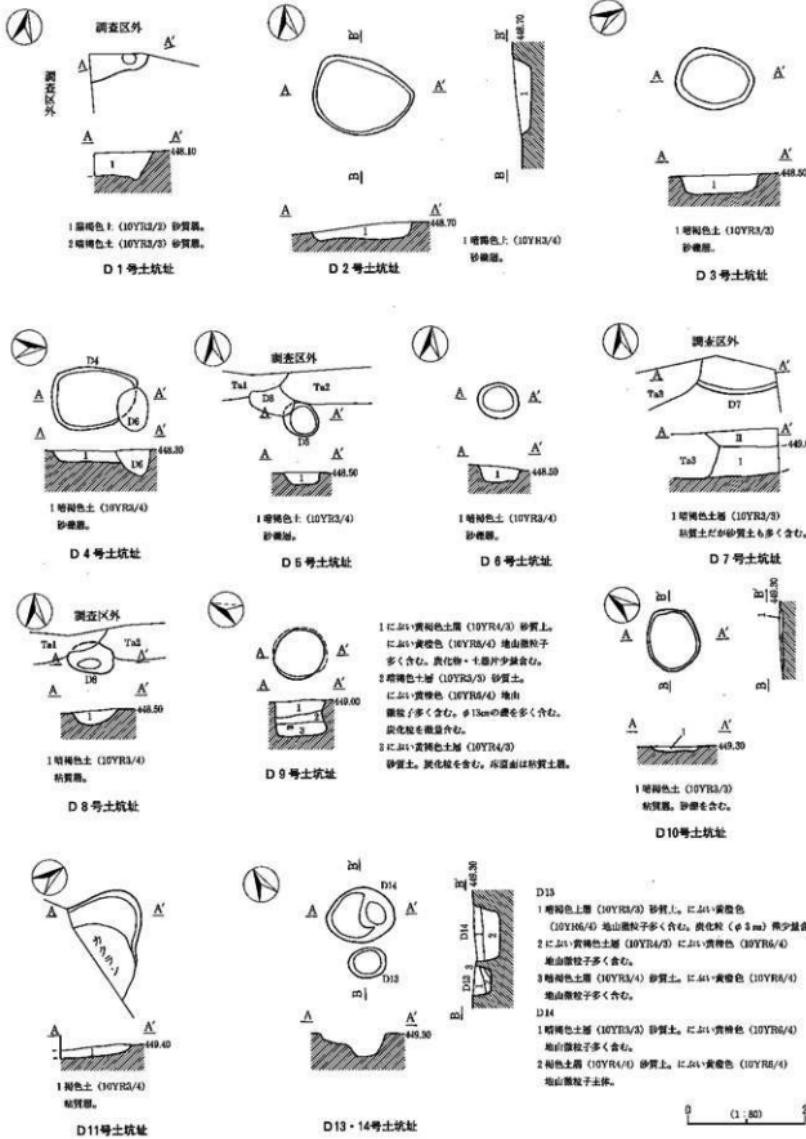
#### (15) D15号土坑

遺構（第17図）

検出位置：Hき2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.0m、短軸約0.8mの楕円形を呈し、主軸方位はN-4°-Wを指す。断面形態：わずかに逆台形を呈し、検出面からの深さは約35cmを測る。覆土：暗褐色、にぶい黄褐色を基調とする砂質土に被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より5片の縄文土器が出土した。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (16) D16号土坑

遺構（第17図）



第16図 土坑址実測図(1)

検出位置：Hき3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.6m、短軸約0.5mの梢円形を呈し、主軸方位はN-51°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：黒褐色(10YR2/2)の、焼土粒を含む粘質土層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から古代以降の所産と考えられる。

(17) D17号土坑

遺構（第17図）

検出位置：Hき3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.0m、短軸約0.6mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN-64°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：黒褐色(10YR2/2)の、焼土粒・炭化粒を含む粘質土層の単層であった。遺物出土状況：覆土中より2片の弥生土器が出土した。時期：出土遺物や覆土の色調から弥生時代以降の所産と考えられる。

(18) D18号土坑

遺構（第17図）

検出位置：Hき3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.7m、短軸約0.6mの梢円形を呈し、主軸方位はN-73°-Wを指す。断面形態：すり鉢状を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：黒褐色(10YR2/2)の、砂礫層の単層であった。遺物出土状況：覆土中より2片の土師器が出土した。時期：覆土の色調から古代以降の所産と考えられる。

(19) D19号土坑

遺構（第17図）

検出位置：Hき2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.8m、短軸約0.6mの梢円形を呈し、主軸方位はN-0°-Wを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：黒褐色(10YR2/2)の、粘質土層の単層であった。遺物出土状況：覆土中より3片の土師器が出土した。時期：出土遺物や覆土の色調から古代以降の所産と考えられる。

(20) D20号土坑

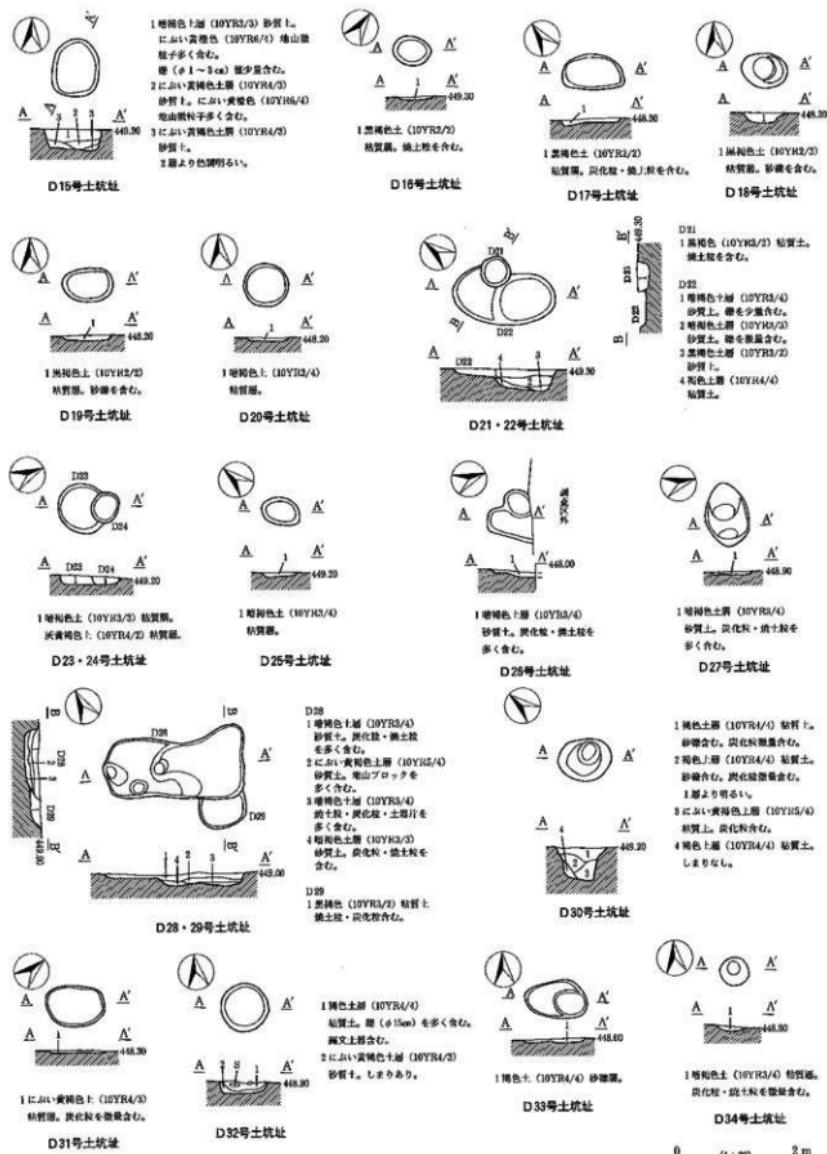
遺構（第17図）

検出位置：Hき2グリッド。重複関係：なし。平面形態：径約0.7mの概ね円形を呈し、主軸方位はN-87°-Wを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：暗褐色(10YR3/4)の、粘質土層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

(21) D21号土坑

遺構（第17図）

検出位置：Hき1、Hき2グリッド。重複関係：D22を切る。平面形態：径約0.5mの概ね円形を呈し、主軸方位はN-77°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：黒褐色(10YR2/3)の、粘質土層の単層であった。遺物出土状況：覆土中より1片の弥生土器が出土した。時期：



第17図 土坑址測量図(2)

出土遺物や覆土の色調から弥生時代以降の所産と考えられる。

#### (22) D22号土坑

遺構(第17図)

検出位置：Hき1、Hき2グリッド。重複関係：D21に切られる。平面形態：長軸約1.7m、短軸約0.8mの楕円形を呈し、主軸方位はN-27°-Wを指す。断面形態：2段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは約35cmを測る。覆土：暗褐色を基調とする砂質土に被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より1点の石鏃が出土した。

#### 遺物(第26図、第5表)

10は黒曜石製の石鏃である。一部欠損している。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (23) D23号土坑

遺構(第17図)

検出位置：Hき1グリッド。重複関係：D24に切られる。平面形態：長軸約0.95m、短軸約0.8mの楕円形を呈し、主軸方位はN-49°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。覆土：暗褐色(7.5YR3/3)の、粘質土層の単層であった。遺物出土状況：覆土中より3片の縄文土器が出土した。時期：出土遺物や覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (24) D24号土坑

遺構(第17図)

検出位置：Hき1グリッド。重複関係：D23を切る。平面形態：径約0.5mの概ね円形を呈し、主軸方位はN-28°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。覆土：灰黄褐色(10YR4/2)の、粘質土層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から古代以降の所産と考えられる。

#### (25) D25号土坑

遺構(第17図)

検出位置：Hき1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.65m、短軸約0.45mの楕円形を呈し、主軸方位はN-30°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約5cmを測る。覆土：暗褐色(10YR3/4)の、砂礫層の単層であった。遺物出土状況：覆土中より2片の縄文土器が出土した。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (26) D26号土坑

遺構(第17図)

検出位置：Hき1グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：2段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは約5cmを測る。覆土：炭化粒、焼土粒を多く含む暗褐色を基調とする粘質土に被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より土師器1点が出土した。

#### 遺物(第20図、第3表)

3は土師器壺である。時期：古代の所産と考えられる。性格は屋外における調理場など火を扱う施設と考

えられる。

#### (27) D27号土坑

##### 遺構(第17図)

検出位置：Hき1、Hく1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.0m、短軸約0.7mの橢円形を呈し、主軸方位はN-84°-Wを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約5cmを測る。覆土：暗褐色(10YR3/4)の、焼土粒・炭化粒を多く含む粘質土層の単層であった。遺物出土状況：覆土中より土師器5点、須恵器2点、弥生土器1点が出土した。

##### 遺物(第20図、第3表)

4は須恵器壺である。5は土師器壺である。時期：古代の所産と考えられる。性格は屋外における調理場など火を扱う施設と考えられる。

#### (28) D28号土坑

##### 遺構(第17図)

検出位置：Hき1、Hく1グリッド。重複関係：D29を切る。平面形態：長軸約2.4m、短軸約1.2mの隅丸長方形を呈し、主軸方位はN-73°-Wを指す。断面形態：2段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。床面には3箇所の小ピットが掘り込まれている。覆土：暗褐色を基調とする、炭化粒、焼土粒を多く含む土層に被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より數十点の土師器、1片の須恵器が出土した。

##### 遺物(第20図、第3表)

6は須恵器壺蓋である。7は土師器壺である。時期：古代の所産と考えられる。性格は屋外における調理場など火を扱う施設と考えられる。

#### (29) D29号土坑

##### 遺構(第17図)

検出位置：Hき1、Hく1グリッド。重複関係：D28に切られる。平面形態：D28に切られて不明。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。覆土：にぶい黄褐色(10YR4/3)の粘質土で単層であった。遺物出土状況：覆土中より1片の繩文土器が出土した。時期：覆土の色調から繩文時代の所産と考えられる。

#### (30) D30号土坑

##### 遺構(第17図)

検出位置：Hき1、Hき2、Hく1、Hく2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.9m、短軸約0.65mの橢円形を呈し、主軸方位はN-33°-Wを指す。断面形態：3段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは約0.5mを測る。覆土：褐色を基調とする土層に被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より4点の繩文土器が出土した。時期：繩文時代の所産と考えられる。

#### (31) D31号土坑

##### 遺構(第17図)

検出位置：Hく1、Hく2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.95m、短軸約0.7mの楕円形を呈し、主軸方位はN—49°—Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは3cmを測る。覆土：にぶい黄褐色（10YR4/3）の、炭化粒を微量含む粘質層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：縄文時代の所産と考えられる。

#### (32) D32号土坑

##### 遺構（第17図）

検出位置：Hく1グリッド。重複関係：なし。平面形態：径約0.8mの概ね円形を呈し、主軸方位はN—88°—Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：黄褐色を基調とする土層に被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より縄文土器、礫石器が出土した。

##### 遺物（第24図、第4表）

1は磨石である。2は敲石である。時期：縄文時代の所産と考えられる。

#### (33) D33号土坑

##### 遺構（第17図）

検出位置：Hく1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.0m、短軸約0.65mの楕円形を呈し、主軸方位はN—87°—Wを指す。断面形態：2段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは4cmを測る。覆土：褐色（10YR4/4）の、砂礫を含む層で単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代以降の所産と考えられる。

#### (34) D34号土坑

##### 遺構（第17図）

検出位置：Hこ2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.5m、短軸約0.45mの僅かな楕円形を呈し、主軸方位はN—5°—Wを指す。断面形態：椀状を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/4）の、炭化粒・焼土粒を微量含む粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から古代以降の所産と考えられる。

#### (35) D35号土坑

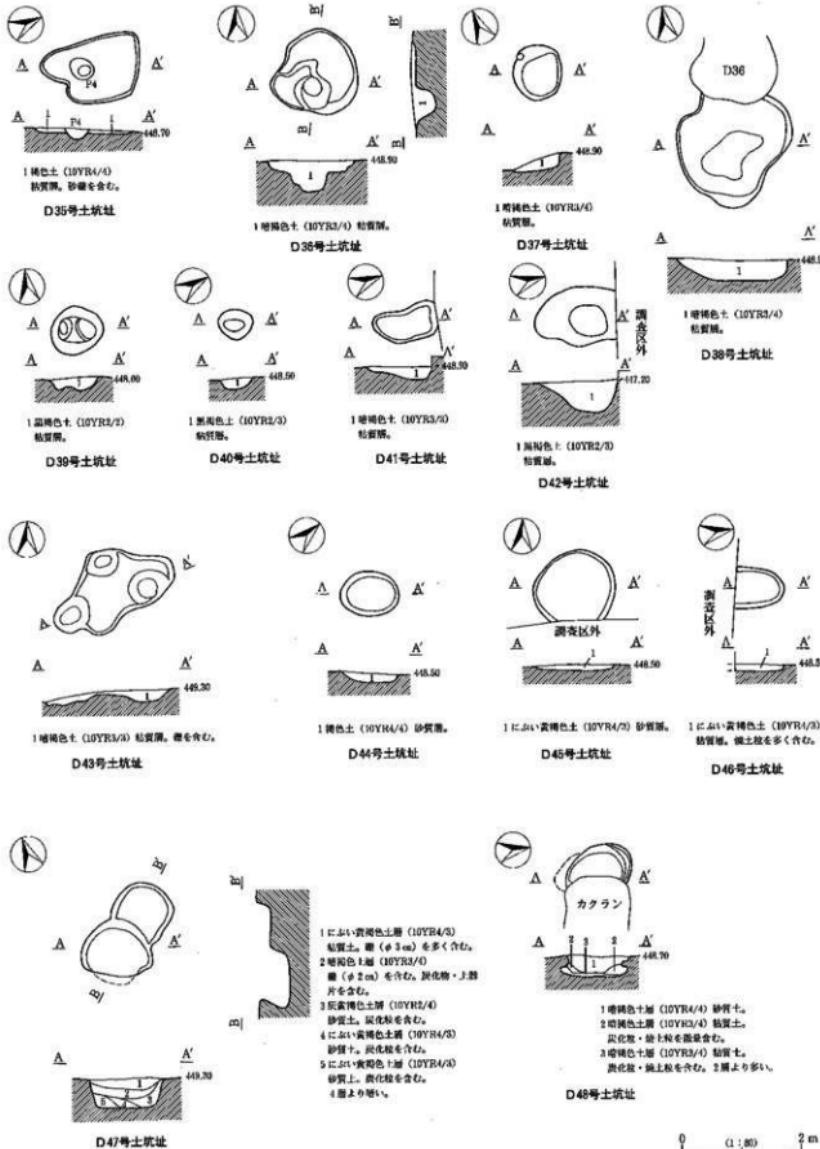
##### 遺構（第18図）

検出位置：Hこ1、Hこ2、Mあ1、Mあ2グリッド。重複関係：P4に切られる。平面形態：長軸約1.7m、短軸約1.1mの僅かな楕円形を呈し、主軸方位はN—29°—Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは4cmを測る。覆土：褐色（10YR4/4）の、砂礫を含む粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代以降の所産と考えられる。

#### (36) D36号土坑

##### 遺構（第18図）

検出位置：Mあ2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.4m、短軸約1.3mの楕円形を呈し、主軸方位はN—9°—Eを指す。断面形態：2段に掘り込まれた逆台形を呈し、検出面からの深さは40cmを測る。



第18図 土坑址実測図(3)

覆土：暗褐色（10YR3/4）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

#### (37) D37号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Hご3、Mあ3グリッド。重複関係：D58を切る。平面形態：長軸約0.9m、短軸約0.8mの楕円形を呈し、主軸方位はN-10°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。

覆土：黒褐色（10YR2/3）の、粘質土層の単層であった。遺物出土状況：覆土中より須恵器1点、礫石器が出土した。

遺物（第20・24図、第3・4表）

20-8は須恵器壺である。24-5は礫石器で、顕著な磨滅痕と敲打痕を残す。時期：出土遺物などから古代以降の所産と考えられる。

#### (38) D38号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Mあ2、Mあ3グリッド。重複関係：D36に切られる。平面形態：長軸約2.2m、短軸約1.8mの不定形を呈し、主軸方位はN-12°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。

覆土：黒褐色（10YR2/3）の、粘質土層の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

#### (39) D39号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Mあ1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.9m、短軸約0.8mの僅かな楕円形を呈し、主軸方位はN-0°-Wを指す。断面形態：W字状を呈し、検出面からの深さは約25cmを測る。覆土：黒褐色（10YR2/2）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：覆土中より7片の弥生土器が出土した。時期：出土遺物や覆土の色調から弥生時代以降の所産と考えられる。

#### (40) D40号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Mあ1グリッド。重複関係：なし。平面形態：径約0.5mの概ね円形を呈し、主軸方位はN-19°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：黒褐色（10YR2/3）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：覆土中より1片の時期不明の土器が出土した。時期：覆土の色調から古代以降の所産と考えられる。

#### (41) D41号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Lい10、Lう10、Mい1、Mう1グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：暗褐色

(10YR3/3) の、粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代以降の所産と考えられる。

#### (42) D42号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Lう10、Mう1グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：すり鉢状を呈し、検出面からの深さは約50cmを測る。覆土：黒褐色（10YR2/3）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：覆土中より5片の縄文土器が出土した。時期：出土遺物や覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (43) D43号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Mう1、Mえ1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.2m、短軸約1.2mの不正形を呈し、主軸方位はN-68°-Eを指す。底面に径約0.5m内外の小ピットを三箇所伴う。断面形態：各々の小ピットの断面形はU字状を呈し、深いところで検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/3）の疊を含む粘質土の単層であった。遺物出土状況：覆土中より1片の弥生土器が出土した。時期：覆土の色調から弥生時代以降の所産と考えられる。

#### (44) D44号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Hけ1、Hこ1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.95m、短軸約0.75mの梢円形を呈し、主軸方位はN-26°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：褐色（10YR4/4）の砂質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (45) D45号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Hき3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.4m、短軸約1.3mの梢円形を呈し、主軸方位はN-33°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：にぶい黄褐色（10YR4/3）の砂質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (46) D46号土坑

遺構（第18図）

検出位置：Hき3グリッド。重複関係：調査区外未検出のため不明。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：にぶい黄褐色（10YR4/3）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (47) D47号土坑

##### 遺構（第18図）

検出位置：Hか3、Hき3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.65m、短軸約1.1mの連結上坑状を呈し、主軸方位はN-40°-Eを指す。断面形態：2段に掘り込まれた箱型を呈しているが、南西端はオーバーハングしている。検出面からの深さは約50cmを測る。覆土：にぶい黄褐色を基調とした土層によって被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より數十点の縄文土器、礫石器、剥片石器が出土した。

##### 遺物（第20・24・26図、第3・4・5表）

20-9は深鉢である。沈線文や三角刺突紋が施されている。24-3は石斧あるいは石匙である。4は石匙である。6は磨石または敲石で、顕著な磨滅痕と敲打痕を残している。26-3・6は黒曜石製の石鏃である。3は一部欠損している。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (48) D48号土坑

##### 遺構（第18図）

検出位置：Hこ3グリッド。重複関係：搅乱によって切られる。平面形態：調査区外未検出のため不明。断面形態：袋状を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：暗褐色を基調とする土層によって被覆されていた。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (49) D49号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hこ2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.8m、短軸約0.65mの楕円形を呈し、主軸方位はN-14°-Wを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。覆土：暗褐色（10YR4/3）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (50) D50号土坑

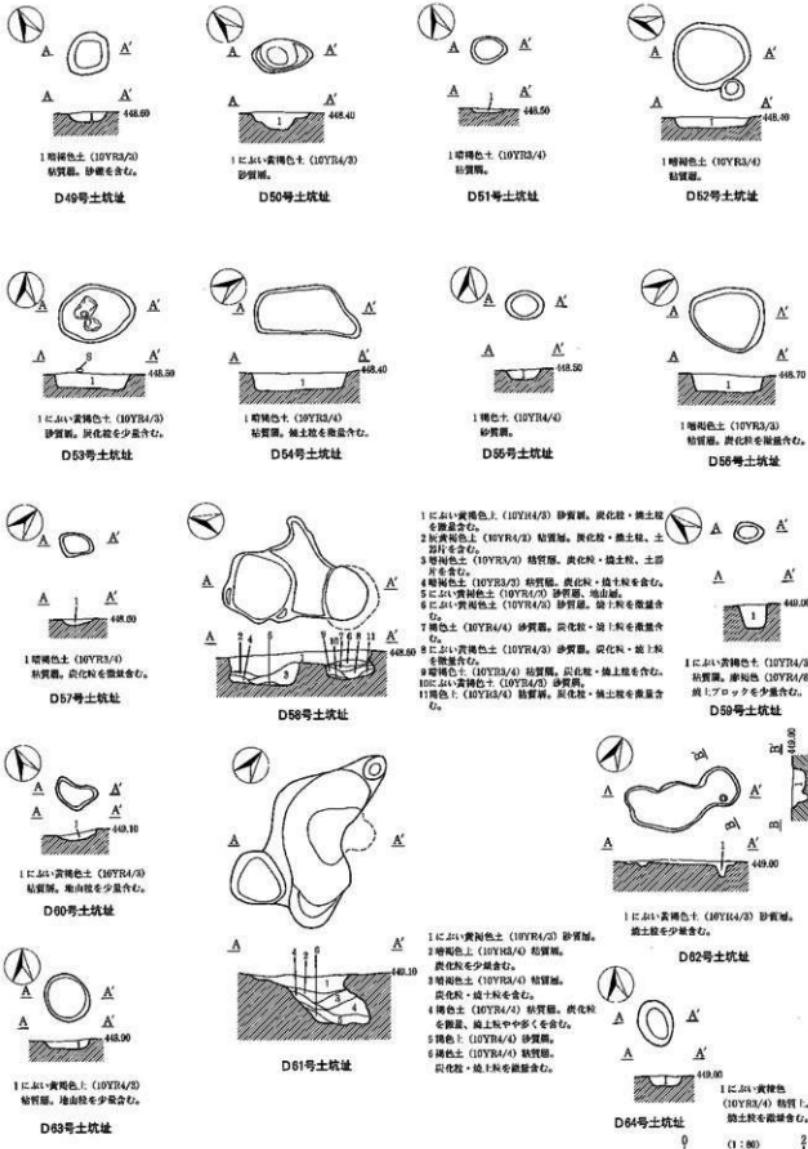
##### 遺構（第19図）

検出位置：Mあ1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.0m、短軸約0.5mの楕円形を呈し、主軸方位はN-39°-Wを指す。断面形態：2段に掘り込まれたすり鉢状を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：にぶい黄褐色（10YR4/3）の砂質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (51) D51号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hこ2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.6m、短軸約0.45mの楕円形を呈し、主軸方位はN-58°-Wを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/4）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。



第19図 土坑址実測図(4)

#### (52) D52号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Mあ1、Mあ2グリッド。重複関係：P20に切られる。平面形態：長軸約1.25m、短軸約1.1mの楕円形を呈し、主軸方位はN-24°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/4）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：覆土中より4片の縄文土器が出土した。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (53) D53号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hこ2、Mあ2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.3m、短軸約1.0mの楕円形を呈し、主軸方位はN-89°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約25cmを測る。覆土：にぶい褐色（10YR4/3）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：覆土中より8片の縄文土器、礫石器が出土した。

##### 遺物（第24図、第4表）

7は磨石もしくは敲石で、顕著な磨滅痕と敲打痕を残す。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (54) D54号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Mあ2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.8m、短軸約0.8mの楕円形を呈し、主軸方位はN-39°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/4）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (55) D55号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hこ1、Mあ1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.6m、短軸約0.5mの楕円形を呈し、主軸方位はN-17°-Eを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：褐色（10YR4/4）の砂質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (56) D56号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hこ1グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.25m、短軸約1.05mの楕円形を呈し、主軸方位はN-88°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約30cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/3）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：覆土中より数点の縄文土器が出土した。

##### 遺物（第26図、第5表）

11は黒曜石製の石鎌である。一部欠損している。時期：出土遺物や覆土の色調から縄文時代の所産と考え

られる。

#### (57) D57号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hこ2、Mあ2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.6m、短軸約0.3mの楕円形を呈し、主軸方位はN-49°-Eを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：暗褐色（10YR3/4）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：帰属時期は不明である。

#### (58) D58号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hこ2、Hこ3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約2.4m、短軸約1.2mの連続土坑状を呈し、主軸方位はN-9°-Wを指す。断面形態：箱形を呈し、一部オーバーハングしている。検出面からの深さは約50cmを測る。覆土：黄褐色、暗褐色を基調とする土層によって被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より12片の縄文土器片、礫石器が出土した。

##### 遺物（第24図、第4表）

8は礫石器であるが器種は判然としない。時期：出土遺物や覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (59) D59号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hく2グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.5m、短軸約0.35mの楕円形を呈し、主軸方位はN-36°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。覆土：にぶい黄褐色（10YR4/3）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (60) D60号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hく3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約0.7m、短軸約0.35mの不正な楕円形を呈し、主軸方位はN-62°-Wを指す。断面形態：皿状を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：にぶい黄褐色（10YR4/3）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

#### (61) D61号土坑

##### 遺構（第19図）

検出位置：Hく2、Hく3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約3.4m、短軸約1.8mの連続土坑状を呈し、主軸方位はN-8°-Eを指す。断面形態：東側に大きく膨らむ袋状を呈し、検出面からの深さは約80cmを測る。覆土：褐色を基調とする土層によって被覆されていた。遺物出土状況：覆土中より11片の縄文土器、礫石器が出土した。

遺物（第24・26図、第4・5表）

24-9は磨石もしくは敲石で、顕著な磨滅痕と敲打痕を残す。26-25は黒曜石製の石鎌である。27は黒曜石の石核である。時期：出土遺物や覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

(62) D62号土坑

遺構（第19図）

検出位置：Hく3グリッド。重複関係：なし。平面形態：長軸約1.9m、短軸約0.8mの不正な梢円形を呈し、底面に小ビットが数箇所穿たれている。主軸方位はN-54°-Wを指す。断面形態：皿状を呈し、底面に小ビットが数箇所穿たれている。覆土：にぶい黄褐色（10YR4/3）の砂質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

(63) D63号土坑

遺構（第19図）

検出位置：Hく2グリッド。重複関係：なし。平面形態：径約0.8mの円形を呈し、主軸方位はN-7°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。覆土：にぶい黄褐色（10YR3/4）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：遺物は出土しなかった。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

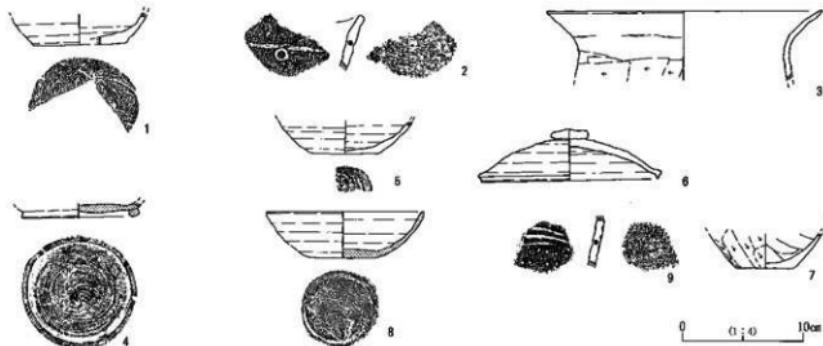
(64) D64号土坑

遺構（第19図）

検出位置：Hか1グリッド。重複関係：H1号住居址に切られる。平面形態：長軸約0.8m、短軸約0.6mの梢円形を呈し、主軸方位はN-18°-Wを指す。断面形態：逆台形を呈し、検出面からの深さは約15cmを測る。覆土：にぶい黄褐色（10YR3/4）の粘質土の単層であった。遺物出土状況：礫石器が4点出土した。

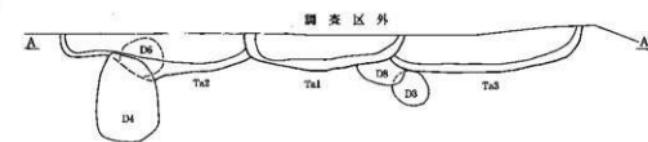
遺物（第24・25図、第4表）

24-10・11は砾石器で、若干くぼんでいる。25-1・2は砾石器で、顕著な磨滅痕と敲打痕を残す。時期：覆土の色調から縄文時代の所産と考えられる。

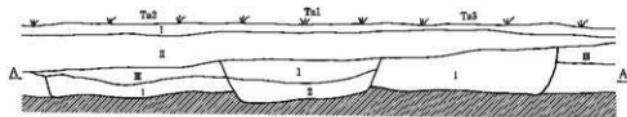


第20図 土坑址出土土器実測図

(A)



調査区外



Ta1

1 塗褐色土層 (10YR3/2) 粘質土

角巣 (φ 1~5cm) 含 Gs

2 塗褐色土層 (10YR3/2) 粘質土

有機質, 含 (φ 1~2cm) 少量含 Gs

Ta2

1 塗褐色土層 (10YR3/2) 粘質土

角巣 (φ 5~10cm) 含 Gs

Ta3

1 塗褐色土層 (10YR3/2) 粘質土

角巣 (φ 5~10cm) 含 Gs

標高449.00m  
(1 : 800) 2 m

B|

D|

(A)

C

A'

C'

A

A'

B|

D|

B|

D|

Ta4

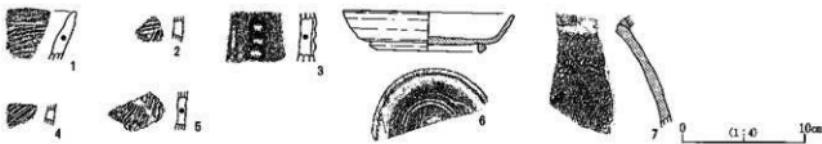
1 塗褐色土層 (10YR3/2) 砂礫層

C

C'

標高448.60m  
(1 : 800) 2 m

第21図 鮎穴状构造測定図



第22図 造構外出土土器実測図

### 第3節 その他の遺構

#### (1) T a 1号竪穴状遺構

遺構 (第21図)

検出位置: Aき3、Aき4グリッド。重複関係: T a 2・T a 3・D 8を切る。平面形態: 調査区外未検出のため不明。断面形態: 逆台形を呈し、掘り込み面からの深さは約70cmを測る。床面状態: 緩やかな皿状を呈しているが、所々で地山の礫が突き出している。覆土: 黒褐色を基調とする2層に分層出来た。西側の立ち上がりは遺物包含層から掘り込んでいるものと思われるが、同色のため判然としなかった。遺物出土状況: 遺物は出土しなかった。時期: 帰属時期は不明である。

#### (2) T a 2号竪穴状遺構

遺構 (第21図)

検出位置: Aく3、Aく4、Aき3、Aき4グリッド。重複関係: T a 1に切られ、D 4を切る。D 6との切りあい関係は確認できなかった。平面形態: 調査区外未検出のため不明。断面形態: 逆台形を呈し、掘り込み面からの深さは約50cmを測る。床面状態: 概ね平坦であるが、東側(山側)に向かうにつれ10cm程度高くなっている。覆土: 黒褐色(10YR2/3)の、砂礫を含む粘質層の単層であった。遺物出土状況: 遺物は出土しなかった。時期: 帰属時期は不明である。

#### (3) T a 3号竪穴状遺構

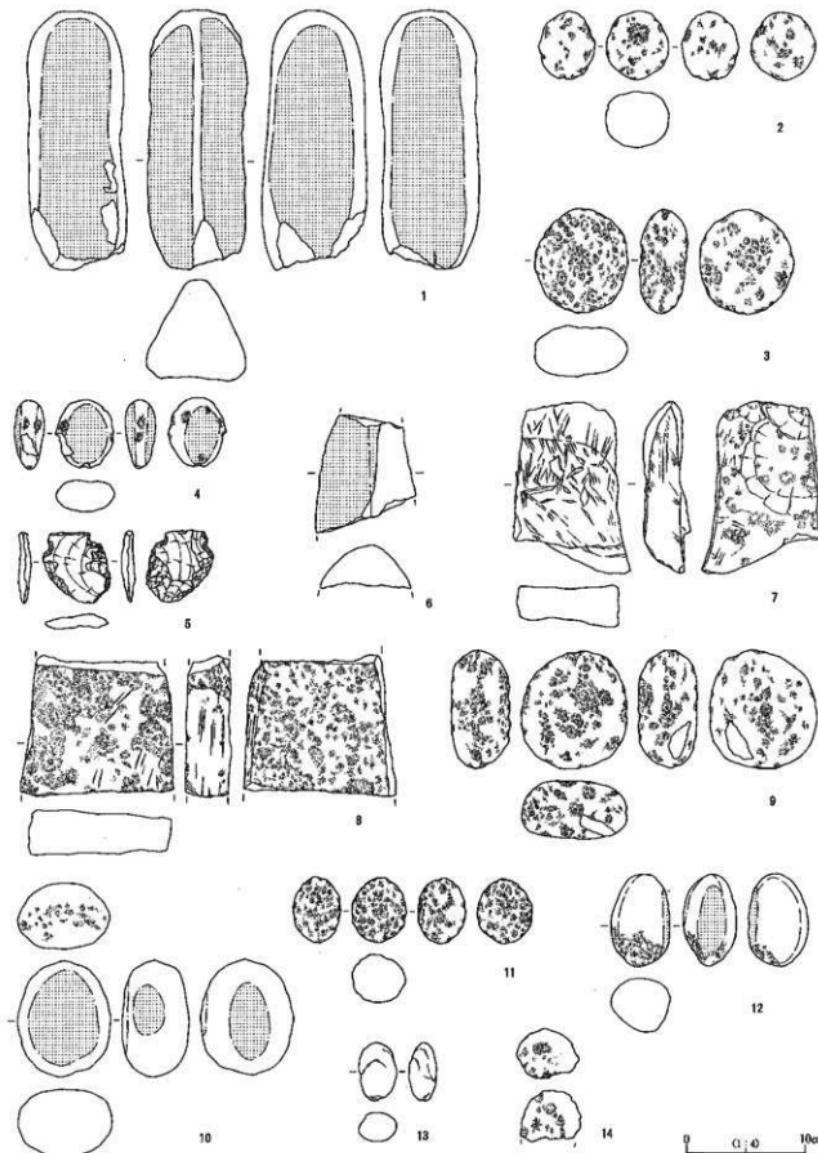
遺構 (第21図)

検出位置: Aか3、Aき3グリッド。重複関係: T a 1に切られ、D 5・D 7を切る。平面形態: 調査区外未検出のため不明。断面形態: 逆台形を呈し、検出面からの深さは約70cmを測る。床面状態: 概ね平坦であるが、所々で地山の礫が突き出している。覆土: 暗褐色(10YR3/3)の、砂礫を含む粘質層の単層であった。遺物出土状況: 遺物は出土しなかった。時期: 帰属時期は不明である。

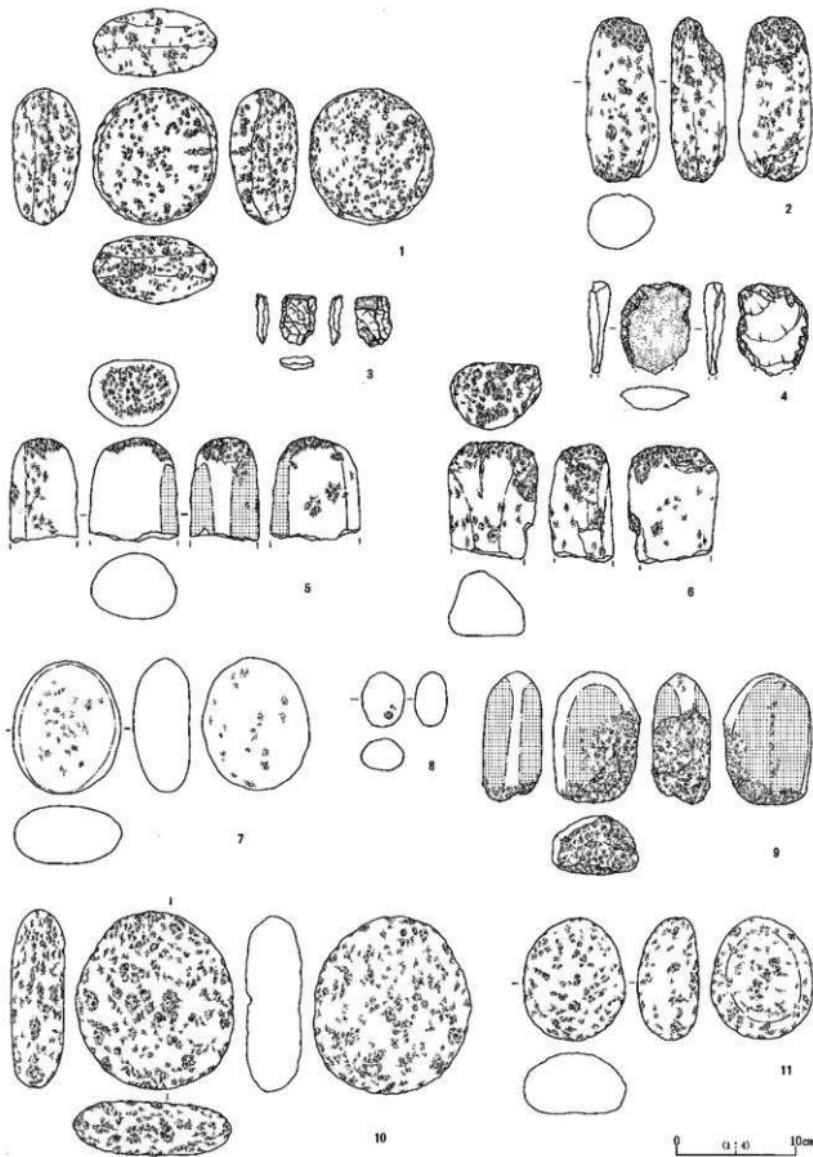
#### (4) T a 4号竪穴状遺構

遺構 (第21図)

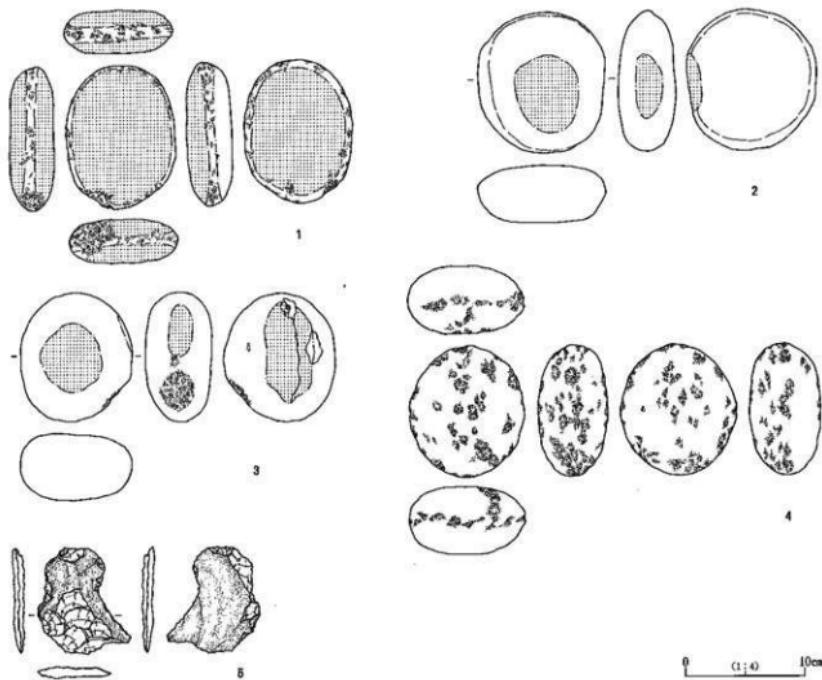
検出位置: Mい1、Mい2、Mう1、Mう2グリッド。重複関係: P 1～P 3に切られる。平面形態: 約3.6m×約3.6mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN-39°-Wを指す。断面形態: 懐かな逆台形を呈し、検出面からの深さは約20cmを測る。床面状態: 概ね平坦であるが、所々で地山の礫が突き出している。覆土: 暗褐色(10YR3/3)の、砂礫層の単層であった。遺物出土状況: 時期の判別できるような遺物は出土しなかった。時期: 帰属時期は不明である。



第23図 住居址出土石器実測図



第24图 土坑址出土石器实测图(1)



第25図 土坑及び遺構外出土石器実測図(2)

#### 第4節 遺構外出土の遺物

本調査において出土した遺構外のグリッド遺物や堅穴住居址などから出土した混入遺物には土器類や石器類が存在した。第22図に土器類を、第25・26図に石器類を掲載した。

##### (1) 遺構外出土の土器類 (第22図、第3表)

1～5は縄文土器の深鉢である。いずれも小片であるので詳細は不明である。6は高台をもつ須恵器の环である。7は須恵器の甕である。

##### (2) 遺構外出土の石器類 (第25・26図、第4・5表)

25-3は礫石器で、顕著な磨滅痕と敲打痕を残す。25-4は礫石器で、表裏面中央に敲打痕を若干残す。25-5は搔器で、粗い周辺剥離を施することで刃部を作出している。26-1・2・4・5・8・9・12・13・15～18は黒曜石製の石鎚である。このうち15～18は未製品である。26-20～22は黒曜石製の石鎚である。このうち22は未製品である。26は黒曜石の原石である。27は黒曜石の石核である。



第26図 黒曜石及びチャート尖端図

第1表 掘載土器観察表 〈 〉推定値 ( ) 残存値を示す。

遺傳子	現場No	整理No	掲載No	種別	固有名	残存度	法量(cm)		測定・丈量		外 面	内 面	色 調	備 考
							口径	高さ	幅	長さ				
H1		39	9-1	紙漉器	坪蓋	白目1/4	18.2	(3.4)	—	クロコロコゾテ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒黒		
H1		26	9-2	紙漉器	坪	口~底面 1/2	13.0	3.5	7.2	クロコロコゾテ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ、面銀	内外約3.5V/1灰白		
H1		27	9-3	紙漉器	坪	口~底面 1/2	12.0	4.0	6.2	クロコロコゾテ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰白 面約2.5V/黒(5V/5) 約10CM/4.5cm(5V/5)		
H1		25	9-4	紙漉器	坪	口~底面 2/3	13.3	3.8	5.8	クロコロコゾテ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰在基部 約2.5V/黒在基部 (5V/5)の部分を斜む。		
HIPIT	D64 No7	45	9-5	紙漉器	坪	元形	12.0	4.1	5.8	クロコロコゾテ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰黄		
H1	8	9-6	紙漉器	坪	体底 ~底盤	5.2	(3.0)	—	体底ツバメロコナダ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰白			
H1	11	9-7	紙漉器	坪	底盤 ~底盤	—	(2.1)	5.8	体底ツバメロコナダ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約10CM/4.5cm(5V/5)			
H1		28	9-8	紙漉器	坪	底盤	—	(1.0)	5.0	クロコロコゾテ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5)に凹む相		
HIPIT	D64 No7	45	9-9	紙漉器	坪	底盤	—	(1.1)	6.8	クロコロコゾテ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5)		
HIPIT	D64 No7	48	9-10	紙漉器	坪	底盤	—	(1.1)	6.0	クロコロコゾテ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5)		
H1		56	9-11	紙漉器	可調蓋	口~側 上位	12.0	(7.7)	—	リコロコナダ、自然傾 斜	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約10CM/4.5cm(5V/5)		
H1	4	4	9-12	紙漉器	墨	口~側 1/6	—	(1.3)	—	リコロコナダ	横底~ハケ	約1.5MS/7灰 約1.7.5MS/1灰黒	自然傾斜 あり。	
HIPIT	D64 No8	36	9-13	紙漉器	変	剥離片	—	—	—	リコロコナダ	横底~ハケ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒 面約1.5MS/7灰		
H1	14	14	10-14	紙漉器	墨	口~ 底盤 1/4側 1/4側	27.0	(10.0)	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	6	6	10-15	紙漉器	墨	剥離片	—	—	—	リコロコナダ	横底~ハケ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5)		
HIPIT	D64 No9	36	10-16	紙漉器	墨	剥離片	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	23	20-4	10-17	紙漉器	墨	剥離	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	21	20-2	10-18	紙漉器	墨	剥離	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	1	1	10-19	紙漉器	墨	剥離片	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	9	9	10-20	紙漉器	墨	剥離片	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	22	20-3	10-21	紙漉器	墨	剥離	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	18	18	10-22	紙漉器	墨	剥離下板	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	20	20-1	10-23	紙漉器	墨	剥離	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	24	24	10-24	紙漉器	墨	剥離片	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	5	5	10-25	紙漉器	墨	口~側 1/4側	—	(1.3)	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
HIPIT	D64 No3	47	10-26	紙漉器	實	剥離片	—	—	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1		37	10-27	紙漉器	墨	底盤1/6	—	(1.5)	—	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
HIPIT	D64 No2	45	10-28	紙漉器	年	底盤1/3	—	(2.3)	(5.0)	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ 丁寧なヘラクゼ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1		31	10-29	土嚢物	年	口~底盤 1/2盤	12.0	4.2	(5.0)	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ 黄色地紋	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
H1	12	12	10-30	土嚢物	年	口~底盤 1/2盤	12.0	4.1	5.8	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		
HIPIT	D64 No2	55	10-31	土嚢物	年	口~底盤 1/2盤	12.0	4.9	5.8	リコロコロコロコ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ ツバメ頭部近傍へラクゼ	リコロコナダ 黒色地紋	内外約3.5V/1灰 面約2.5V/黒(5V/5) 約17.5MS/4.5cm(5V/5)		

第2表 掘栽土器觀察表 &lt; &gt; 推定値 ( ) 残存値を示す。

遺構名	現場 No	整理 No	施設 No	種別	器種	残存度	法量(cm)			調査・文様			色 調	備 考
							口径	開口	底径	外縁	内面			
H1	43	19-33	上部器	坪	底盤1/4	(13.0)	3.8	(6.8)	「アラ」(アラナダ)内側も切削なし 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	黒色地埋蔵するが 底盤削り	内7.5cm/1箇 外12.5cm/4箇			
H1	30	10-33	上部器	坪	口~底盤 1/4	(13.2)	4.4	(5.2)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	ロコココナダ	内7.5cm/1箇			
H1	33	10-34	上部器	坪	口~底盤 1/3	(13.1)	4.7	(6.8)	「アラ」(アラナダ)(底盤) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	黑色地埋	内7.5cm/1箇 外7.5cm/1箇			
H1	32	10-35	上部器	坪	口~底盤 1/3	(13.4)	3.6	(6.6)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	黑色地埋	内7.5cm/1箇 外7.5cm/1箇			
H1	21	10-36	土器部	坪	底盤	—	(1.0)	8.4	ナダ 底盤	丁寧な黑色地埋	内7.5cm/オーバー黑 外12.5cm/4cm-5cm 外7.5cm/1箇			
H2	35	10-37	上部器	坪	底盤	—	3.4	—	底盤削り不明 底盤内側も切削なし	黑色地埋	内7.5cm/7cm-8cm 外10cm/7cm-8cm 外7.5cm/1箇			
H3	44	10-38	上部器	坪	底盤1/3	—	3.8	(6.8)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	黑色地埋	内7.5cm/1箇 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	24	10-39	上部器	坪	底盤	—	1.1	(5.2)	底盤削り不明 底盤内側も切削なし	黑色地埋	内7.5cm/7cm-8cm 外7.5cm/1箇-2箇			
H3	3	10-40	上部器	坪	口~底盤 1/2	(13.2)	8.3	(8.4)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	ヘリテキニ、黑色地埋	内7.5cm/1箇 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	7	10-41	土器部	坪	底盤	11.5cm/1/6	(6.0)	(8.3)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし 底盤削りのため不規則	ロコココナダ	内7.5cm/7cm-8cm 外7.5cm/6cm-7cm	式鉢形		
H3	38	10-42	土器部	底盤	口底盤 1/6	(21.2)	(7.2)	—	ロココ	ロココナダ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	17	11-43	土器部	底盤	口~底盤 1/6	(19.8)	(6.8)	—	口~底盤「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	ヨコナダ	内7.5cm/2cm-3cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	49	11-44	土器部	底盤	口底盤 1/6	—	(4.7)	—	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	ヨコナダ	内7.5cm/7cm-8cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	29	11-45	土器部	底盤	口底盤 1/6	—	(4.0)	—	ヨコナダ	ヨコナダ	内7.5cm/7cm			
H2	No.3	12-1	底盤	坪	口~底盤	(14.2)	2.6	9.8	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	「アラ」(アラナダ)	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H2	48	12-2	底盤	坪	口~底盤 1/2	(13.0)	4.0	(10.0)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	「アラ」(アラナダ)	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H2	39	12-3	底盤	坪	口~底盤 1/4	(15.4)	(4.0)	(11.2)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	「アラ」(アラナダ)	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm 外7.5cm/1箇-2箇			
H2	No.7	12-4	底盤	坪	底盤	13.0	4.1	6.2	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	「アラ」(アラナダ)	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H2	No.8	12-5	底盤	坪	底盤	—	(1.0)	(7.0)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	「アラ」(アラナダ)	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H2	40	12-6	土器部	坪	底盤 1/2	—	(3.1)	(6.0)	「アラ」(アラナダ) 「アラ」(アラナダ)内側も切削なし	「アラ」(アラナダ)	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H2	66	12-7	土器部	坪	底盤	—	(1.4)	7.2	底盤削り不明 底盤内側も切削なし	ロココナダ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H2	8	12-8	土器部	坪	底盤	—	(1.8)	(9.0)	ヘリテキニ	ナダ	内7.5cm/7cm-8cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H2	23	13-9	土器部	底盤	口~底盤 下底	—	—	—	ヘリテキニ	ヘリテキニ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H2	90	13-10	土器部	坪	口~底盤	(21.0)	(8.0)	—	ヘリテキニ	ヨコナダ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H2	48	13-11	土器部	坪	口底盤 1/6	(13.0)	(4.2)	—	ヨコナダ	ヨコナダ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H2	No.11	13-12	土器部	坪	底盤	2.0	2.6	—	ハラタガ	ハラタガ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	61	15-2	骨	坪	—	(1.0)	—	「アラ」(アラナダ)、赤 底盤	底盤削り不明	「アラ」(アラナダ)、赤 底盤	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm	ショット式焼 合窓		
H3	66	15-3	骨	坪	口~底盤 1/2	(18.0)	(5.2)	—	「アラ」(アラナダ)、赤 底盤	「アラ」(アラナダ)、赤 底盤	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H2	47	15-4	骨	坪	底盤	—	(6.7)	(5.1)	ヘリテキニ	ナダ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H2	No.1	15-5	骨	坪	底盤	—	—	—	底盤削り 底盤内側も切削なし	「アラ」(アラナダ)	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	43	15-6	骨	坪	底盤	—	(3.4)	(6.0)	ヘリテキニ 底盤削り	ヘリテキニ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	42	15-7	骨	坪	底盤	(21.0)	(5.7)	(8.0)	ヘリテキニ 底盤削り	ハケメ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H3	44	15-8	骨	坪	底盤	(21.0)	(3.2)	(13.2)	底盤削り不明	丁寧なヘリテキニ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	45	15-9	骨	坪	底盤	(21.0)	(3.0)	(9.0)	底盤削り不明	底盤削り不明	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			
H3	57	15-10	骨	坪	底盤	—	—	—	4-セキ-1型の複数個 底盤灰(ホーリー、セキ 1型)-セキ-1型の複数個 底盤灰(ホーリー、セキ 1型)-セキ-1型の複数個	ヘリテキニ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	53	15-11	骨	坪	底盤	—	—	—	複数個底盤灰(ホーリー、セキ 1型)-セキ-1型の複数個	ヘリテキニ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	58	15-12	骨	坪	底盤	—	—	—	複数個底盤灰(ホーリー、セキ 1型)-セキ-1型の複数個	ヘリテキニ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm-7cm			
H3	49	15-13	骨	坪	口~底盤	—	—	—	5-ホリ-1型の複数個 底盤灰(ホーリー、セキ 1型)-セキ-1型の複数個	複数個ヘリテキニ	内7.5cm/7cm 外7.5cm/6cm			

第3表 掘立土器觀察表

&lt; &gt; 推定値 ( ) 残存値を示す。

遺構名 No.	現場 No.	掘立 No.	種別	器種	残存度	法長(cm) 口幅 縦高 底径	圓盤・文様		色調	備考	
							外 面	内 面			
H3	55	15-14	寄生	甕	困難	—	—	6.0×1.5の網目状波状文	ヘラナゲ	内外削(?)SYR/1削成	
H3	52	15-15	寄生	甕	口～腹部	—	—	2.5×1.5の網目状波状文(?)	ヘラナゲ	内外削(?)SYR/6削	
H3	54	15-16	寄生	甕	口～腹部	—	—	5.0×1.5の網目状波状文(?)	ヘラナゲ	内SYR/4に、外SYR/2削成	
H3	59	15-17	寄生	甕	腹部	—	—	5.0×1.5の網目状波状文(?)	ヘラナゲ	内外削(?)SYR/4に、内SYR/2削成	
H3	58	15-18	寄生	甕	口～腹部	—	—	特な網目状波状文	ヘラナゲ	内外削(?)SYR/4に、内SYR/2削成	
D1	1	20-1	側面窓	外	内部	—	(2.7)	(7.0)	ロクロコナデ	内SYR/5に、外削(?)SYR/1削	
B9	1	20-2	圓文	深鉢	口縁部	—	—	半圓形口による横斜面 平行波状文(?)	ロクロコナデ	波状(?)輪削 内削(?)SYR/4に、外削(?)SYR/1削	
D26	1	20-3	上端23	表側板	口～腹部上部	22.0	(5.7)	—	11.5×8.0のオーバーラップ 網目状波状文(?)	ロナゲ	内削(?)SYR/1に、外SYR/2削成
D27	No.1	20-4	裏地25	高台付 片	直鉢	—	(1.1)	9.6	ロクロコナデ 直鉢(?)由来未切削	ロクロコナデ	内削(?)SYR/1に、外削(?)SYR/1削
D27	3	20-5	牛跡器	片	底部1/4	—	(2.7)	(5.6)	ロクロコナデ 直鉢(?)由来未切削	ロクロコナデ	内削(?)SYR/1削
D28	1	20-6	裏底器	直鉢	1/2	(0.6)	4.1	2.7×2.6	ロクロコナデ	内削(?)SYR/2に、外削(?)SYR/1削	
D28	2	20-7	上身頭	直鉢	底部	—	(2.9)	(4.6)	ロクロコナデ	内削(?)SYR/2に、外削(?)SYR/1削	
D29	No.1	20-8	直底器	片	口～底部 2/3	32.0	3.8	6.0	11.5×8.0のオーバーラップ 網目状波状文(?)	ロクロコナデ	内削(?)SYR/1に、外削(?)SYR/2削成
D47	1	20-9	圓文	深鉢	直鉢	—	—	半圓形口による横斜面 平行波状文	ロクロコナデ	内削(?)SYR/4に、外削(?)SYR/2削成	
一張	65	22-1	圓文	深鉢	口縁部	—	—	半圓形口による横斜面 平行波状文	ナゲ	内削(?)SYR/2削成	
一張	62	22-2	圓文	深鉢	直鉢	—	—	半圓形口による横斜面 平行波状文	ナゲ	内削(?)SYR/2削成	
一張	64	22-3	圓文	深鉢	直鉢	—	—	脚付け後無頭頂に脚 み口直	ナゲ	内削(?)SYR/2削成	
一張	64	22-4	圓文	深鉢	直鉢	—	—	半圓形口による横斜面 平行波状文	ナゲ	内削(?)SYR/2に、外削(?)SYR/2削成	
一張	63	22-5	圓文	深鉢	直鉢	—	—	半圓形口による横斜面 平行波状文	ナゲ	内削(?)SYR/2に、外削(?)SYR/2削成	
一張	1	22-6	側面窓	蓋	口～底部 1/3	(0.6)	3.2	(0.6)	ロクロコナデ 側面窓(?)由来未切削	ロクロコナデ	内SYR/1に、外SYR/1削
アリット	1	22-7	直底器	甕	底	—	—	半圓形口	ナゲ	内SYR/1に、外SYR/1削	

第4表 掘出石器観察表 &lt; &gt;推定値 ( ) 残存値を示す。

掲載No	遺構名	整理No	種別	器種分類	石質	残存度	法量(cm)	質量(g)	注記	備考
22-1	H1	1	磨石器	磨石	安山岩	一部存	21.7	8.9	8.5	2200 NKIV.A区.H1住カマド
22-2	H1	2	磨石器	不明	多孔質安山岩	完存	5.7	5.3	4.7	960 NKIV.A区.H1住カマド 削痕は認められない。
22-3	H1	6	磨石器	閃石	安山岩	完存	8.7	7.7	4.4	381 NKIV.A区.H1住カマド
22-4	H1	3	磨石器	不明	輝石	完存	5.8	4.9	2.7	27 NKIV.A区.H1住カマド
22-5	H1	5	剥片	磨石	磨石	完存	6.1	5.7	1.2	34 NKIV.A区.H1住 カマド
22-6	H2	11	磨石器	磨石	安山岩	一部存	(9.6)	(8.4)	(3.6)	292 NKIV.A区.H2住カマド
22-7	H2	7	磨石器	石英	砂岩	1/4残存	11.5	10.0	3.5	605 NKIV.A区.H2住カマド
22-8	H2	10	磨石器	石英	砂岩	1/4残存	(11.4)	12.6	3.8	882 NKIV.A区.H2住カマド
22-9	H2	13	磨石器	閃石	安山岩	完存	9.9	8.9	4.8	560 NKIV.A区.H2住カマド
22-10	H2	15	磨石器	磨石	安山岩	完存	9.7	7.8	5.5	620 NKIV.A区.H2住カマド
22-11	H2	8	磨石器	小明	安山岩	完存	5.5	4.0	3.9	103 NKIV.A区.H2住カマド
22-12	H2	14	磨石器	磨石	安山岩	完存	7.8	4.8	4.1	208 NKIV.A区.H2住カマド
22-13	H2	12	磨石器	磨石か?	チャート	完存	4.8	3.2	2.4	51 NKIV.A区.H2住カマド
22-14	H2	9	磨石器	磨石	安山岩	一部存	5.1	(4.3)	(4.2)	111 NKIV.A区.H2住カマド
22-15	D32	16	磨石器	磨石	安山岩	光存	11.3	10.3	5.6	906 NKIV.A区.D32住カマド
22-16	D32	17	磨石器	磨石	安山岩	完存	13.6	6.0	4.6	520 NKIV.A区.D32住カマド
22-17	D47	21	剥片	剥片石	石英	一部存	4.8	2.1	1.1	12 NKIV.A区.D47-1
22-18	D47	20	剥片	石英	石英	光存	(7.7)	5.7	1.9	78 NKIV.A区.D47-1
22-19	D37	18	磨石器	磨石	安山岩	一部存	(8.6)	5.7	5.5	572 NKIV.A区.D37住カマド
22-20	D47	19	磨石器	磨石	四緑石	一部存	(9.2)	7.5	6.5	605 NKIV.A区.D47-1
22-21	D53	22	磨石器	磨石	安山岩	完存	10.9	8.9	4.7	574 NKIV.A区.D53住カマド
22-22	D58	23	磨石器	小明	安山岩	完存	4.5	3.5	2.8	49 NKIV.A区.D58
22-23	D61	24	磨石器	磨石	安山岩	完存	0.8	7.3	5.0	566 NKIV.A区.D61
22-24	D64	28	磨石器	磨石	安山岩	完存	14.8	13.2	4.3	1185 NKIV.A区.D64.N.24
22-25	D64	25	磨石器	磨石	安山岩	完存	0.2	8.5	5.2	576 NKIV.A区.D64.N.24
22-26	D64	27	磨石器	磨石	安山岩	完存	11.9	9.0	3.6	562 NKIV.A区.D64.N.24
22-27	D64	28	磨石器	磨石	安山岩	完存	11.6	10.6	4.8	923 NKIV.A区.D64.N.24
22-28	調査A区一箇	1	磨石器	閃石	磨石	元存	10.9	9.6	5.8	900 NKIV.D区
22-29	調査A区一箇	2	磨石器	磨石	安山岩	完存	10.7	9.3	5.8	820 NKIV.D区
22-30	調査A区一箇	20	剥片	石英	磨石	完存	8.8	7.8	5.9	60 NKIV.A区

第5表 掘出石器観察表 &lt; &gt;推定値 ( ) 残存倀を示す。

馬鹿No	発掘名	整理No	分類	鉄	石	質	残存度等	寸法(cm)			質量(g)	注記(上位接続)	備考
								底3	幅	厚3			
26-1	H2	221	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	(1.35)	0.75	0.38	0.5	NK.IV, AIC1層西区, 押	SKKD考古文書収載資料	
26-2	H2	226	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	1.58	1.65	0.66	1.0	NK.IV, AIC1, H2a	SKKD考古文書収載資料	
26-3	D47	127	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	1.45	1.20	0.76	0.4	NK.IV, AIC1, H2a住1区1層		
26-4	H1	2	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	1.65	1.38	0.53	1	NK.IV, AIC1住1区1層	SKKD考古文書収載資料	
26-5	H1	1	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	2.18	1.35	0.53	1.2	NK.IV, AIC1住1区1層	SKKD考古文書収載資料	
26-6	D47	470	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	2.02	1.60	0.39	0.6	NK.IV, AICD47		
26-7	D14	409	剥片	—	黑曜石	製品欠損	1.72	1.65	0.38	0.1未測	NK.IV, AICD14		
26-8	H1	9	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	1.66	1.66	0.38	0.4	NK.IV, AIC1住1区1層		
26-9	H1	826	剥片石器	石器	黑曜石	完形	1.80	1.26	0.30	0.5	NK.IV, AIC-D47-1, 押		
26-10	D22	426	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	1.50	(1.23)	0.57	0.5	NK.IV, AICD22		
26-11	D66	572	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	2.03	(1.66)	0.45	0.5	NK.IV, AICD66		
26-12	H2	218	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	2.03	(1.47)	0.38	0.5	NK.IV, AIC1, Ta5地山面東		
26-13	H2	396	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	1.65	(1.36)	0.60	1.3	NK.IV, AIC1, H2a側壁上部突出		
26-14	D66	571	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	1.80	1.95	0.68	1.3	NK.IV, AICD66		
26-15	H1	126	剥片石器	石器	黑曜石	製品欠損	2.03	1.20	0.45	1.0	NK.IV, AIC1, H1住1区1層		
26-16	H2	402	剥片石器	石器	黑曜石	未製品	2.25	2.10	0.83	3.1	NK.IV, AIC1, H2住1区1層		
26-17	H1	63	剥片石器	石器	黒曜石	未製品	3.06	2.49	1.13	5.2	NK.IV, AIC1住1区1層		
26-18	H1	61	剥片石器	石器	黒曜石	未製品	2.33	1.51	0.83	2.8	NK.IV, AIC1住1V1K1層		
26-19	H2	287	剥片石器	—	黒曜石	剥片断材	3.15	2.11	1.65	7.9	NK.IV, AIC1, H2a側壁上部突出		
26-20	H1	168	剥片石器	石器	黒曜石	製品欠損	4.05	1.73	0.75	5.1	NK.IV, AIC1住1区No2		
26-21	H2	206	剥片石器	石器	黒曜石	製品欠損	(1.98)	0.68	0.62	0.8	NK.IV, AIC1, H2a側壁上部突出		
26-22	H1	19	剥片石器	石器	黒曜石	未製品	(2.70)	1.20	0.38	1.3	NK.IV, AIC1住1区1層		
26-23	H1	55	剥片石器	石器	黒曜石	剥片断材	3.90	1.73	1.35	9.0	NK.IV, AIC1住1区1層	少頭	
26-24	H1	140	剥片石器	—	黒曜石	剥片断材	3.63	2.10	1.52	9.5	NK.IV, AIC1住1V1K1層		
26-25	D61	602	剥片石器	—	黒曜石	—	2.52	1.35	1.20	2.6	NK.IV, AICTa5		
26-26	H2	181	剥片	—	黑曜石	—	4.05	2.10	1.65	14	NK.IV, AIC12住内側壁下段出	SKKD考古文書収載資料, AIC石器	
26-27	D61	609	石核	—	黑曜石	—	2.10	3.08	1.65	16	NK.IV, AICTa5	SKKD考古文書収載資料	

## 第V章 総括

本遺跡の発掘調査によって検出された遺構は縄文時代前期から弥生時代後期を経て奈良・平安時代にいたる住居址3棟及び土坑64基などであった。調査区によっては近代以降の造成によって遺構面が削平されていることを考慮すると相当数の遺構が存在していたものと考えられる。

開戸遺跡はこれまでの分布調査、本調査及び試掘調査によって弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡と考えられていた。ことに奈良～平安時代にかけては検出住居址数も多く、この遺跡の主体的な時期を示すものとして理解されていた。また、近接する開戸製鉄遺跡の存在や、本調査地点の南側を流れる御堂川を挟んで対岸に所在する豊饒堂遺跡での鍛冶遺構の検出事例から、鉄の生産及び加工を生業とする集団の存在が指摘されてきた遺跡である。

今回の発掘調査では製鉄及び鍛冶にかかる遺構・遺物は確認されなかったが、これまで開戸遺跡では知られていなかつたいくつかの事例を確認することができた。これらを踏まえつつ今回の調査成果を概観する。

まず、新知見としてあげることができる事ができるのが縄文時代前・中期の遺構・遺物の発見である。住居址こそ確認することはできなかったが、数多くの土坑を検出した。これらの中には、断面形態が逆台形のものやフラスコ型のものが並存していた。断面形がフラスコ型を呈しているものについては貯蔵目的に構築されたと考えられるが、断面形逆台形のものもおよそ同様の用途であったのであろう。これら土坑の覆土中からは数多くの黒曜石製鐵や未製品及びチップなどが出土した。さながら鐵製作場所の觀を呈しているように思われる。先述の通り、本調査区内では住居址は確認されなかったのであるが、調査区外に集落跡が存在しており、当該調査区が広場的環境であったことも想像できる。

次に指摘できるのは弥生時代後期の住居跡の存在である。従来、坂城中学校付近の宮上遺跡周辺が弥生時代の集落跡として知られているが、山裾に近い本調査地点まで弥生時代に住居が作られていたことは新たな発見といえる。

今回の発掘調査で得られた新知見の中で特筆すべきは礎石立ちの柱を持つ竪穴住居址（H1号住居址）の検出であろう。本住居址の床面から、やや南側に偏った配置であったが、4基の礎石が検出された。床面を掘り下げる設置されていたが、4基の礎石の上面は概ね水平で柱を設置したものと推定できた。坂城町内で発見例は無いが、類例は長野県佐久市前田遺跡などに見出すことができる。寺院建築などの技術が竪穴式住居にも用いられたのであろうか。この辺の分析は周辺地域の類例を精査して考究してゆく必要があるであろう。

先にも述べたが、本開戸遺跡と御堂川を挟んで対岸に所在する豊饒堂遺跡も開戸遺跡とほぼ同様の時期の遺跡である。今回の調査成果を踏まえて、両遺跡の時期的あるいは性格的な問題を比較検討して、御堂川水系の古代社会の環境を分析する必要があろう。また、本調査地点から南に約1km離れた場所に所在する町横尾遺跡も小河川付近に展開する集落址である。河川をはじめとする自然環境と、古代集落の関係についても科学的分析を行っていく必要があろう。

# 写 真 図 版



A区全景（東より）



H 1号住居址（西より）



H 1号住居址カマド（西より）



H 2号住居址（西より）



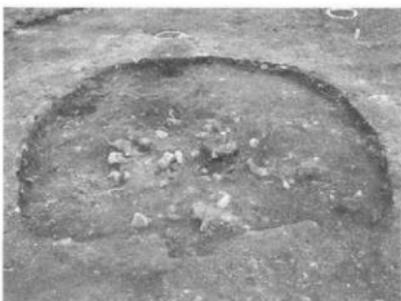
H 2号住居址カマド（西より）



D58（西より）



D48（東より）



Ta 4（南西より）



B区全景（西より）



D区全景（南西より）



C区全景（北より）



E区全景（東より）



15-4



15-5



13-1



13-4



13-9

H 2号住居址出土器 (1 : 3)



20-6



20-8



25-1



25-2



25-3



25-4



25-5



25-6



25-20 (1 : 2)



25-7



25-8



25-9



25-10



25-11



25-15



22-5 (1 : 3)

石器 (1 : 1)

## 報告書抄録

ふりがな	かいぜいせきよん
書名	開畠遺跡IV
副書名	長野県埴科郡坂城町営住宅及び町道建設に伴う緊急発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第31集
編著者名	助川 朋広・時信 武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2008年3月28日

所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因
開畠遺跡IV	埴科郡坂城町大字中之条	市町村 20521	道路番号 36°26'54"	138°11'52"	2006年5月5日～ 2007年3月29日	1,500m <sup>2</sup>	町営住宅及び町道建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
開畠遺跡IV	集落址	細文～平安	竪穴住居址 3棟 土坑址 64基 竪穴状遺構 4基 ピット 44基	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器	古代の集落址の調査

## 坂城町埋蔵文化財調査報告書

『開戸製鉄遺跡－第1次調査報告書』	1977
『開戸製鉄遺跡－第2次調査報告書』	1978
『東裏遺跡』	1983
『中之条遺跡群 宮上遺跡II』(概報)	1993
『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集 『南条遺跡群 東裏遺跡II・青木下遺跡』	1994
第2集 『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集 『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集 『南条遺跡群 塚田遺跡II』	1995
第5集 『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集 『中之条遺跡群 寺浦遺跡II』	1996
第7集 『中之条遺跡群 上町遺跡II』	1996
第8集 『上五明条里水田址』	1996
第9集 『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集 『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集 『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集 『戌久保・町横尾遺跡』	1998
第13集 『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集 『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集 『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集 『開戸遺跡III』	2000
第17集 『中之条遺跡群 北川原遺跡II』	2001
第18集 『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集 『中之条遺跡群 宮上遺跡I・II・III・IV』	2001
第20集 『金井東遺跡群 保地遺跡II』	2002
第21集 『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集 『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集 『豊饒堂遺跡III』	2004
第24集 『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集 『込山遺跡群 細山C遺跡II・III』	2006
第28集 『込山遺跡群 細山D遺跡』	2007
第29集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集 『南条遺跡群 青木下遺跡II・III』	2007
第31集 『開戸遺跡IV』(本書)	2008

---

### 坂城町埋蔵文化財調査報告書第31集

#### 開戸遺跡IV

発行日 2008年3月28日

編集者 坂城町教育委員会

〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1

TEL 0268(82)1109

印刷者 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号

TEL 026(243)2105

---

